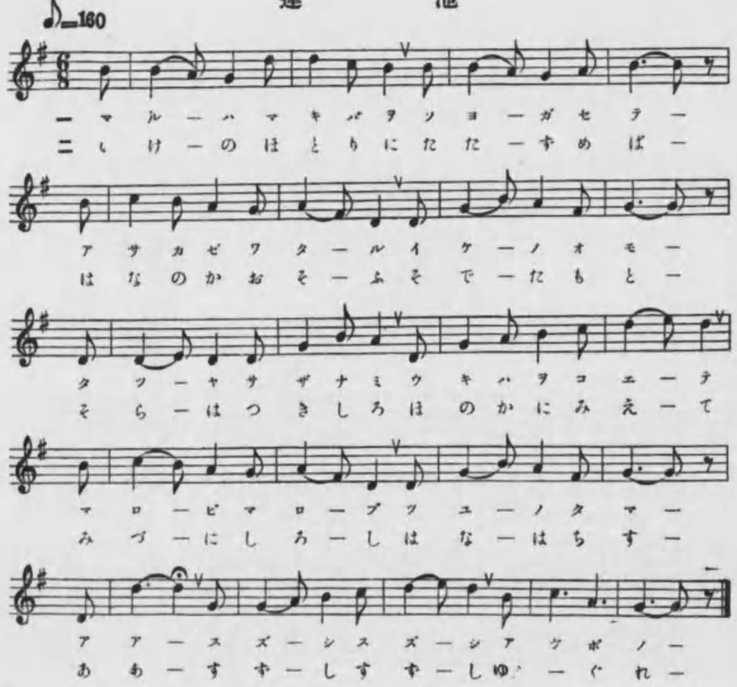
配當	第一學期 七月 自至 十日 四週 六週			
題目	〔七番〕 蓮池			
構成	調子 ト調長調	拍子 6/8	音域 ニ→ホ	

指導要項			
目的	[形式的陶冶] 蓮池の優雅な情緒に浸らせ、此の美しい曲調を通して兒童の美的感情を陶冶する。 [實質的陶冶] 歌曲を歌はせて旋律やリズムや發想等の形式的な均齊美を味はしめ、兒童の旋律的形式感やリズム感や發想感を陶冶する。		
教材	教材參考レコード 蓮池 C三三二四一 帝蓄一五三三八 鑑賞用レコード **ハレルヤコーラス** V三五七六八 VJB三三 1 ヘンデルの少年時代の逸話及びその業蹟を知らしめる。 2 オペラとオラトリオとの差異、オペラは人間同志の關係が主となり巷間の話題や傳說等を取扱ひ芝居をするが、オラトリオは神と人間の問題が主になり多くは聖書を脚本とし音樂のみ（最初は衣裳をつけ所作を伴つた）である。 ハレルヤは「神を讃美せよ」の意で「救世主」中の合唱曲である。	統系の導指譜樂	指導
		拍子 16 「六拍子」の指導 音程 20 [シソ][ソシ] 標號 32 「ポーズ」と云ふ言葉の指導 [時間を延ばす] 	「6/8拍子」の指導
鑑賞教材及指導要點	1 第一段と第二段及び第三段と第四段の旋律が相對的であることを發見させて、旋律の照應關係を理解させる。更に旋律の形式美を感得させる。 2 變格六拍子の特長を充分表現させる。弱聲に歌ひ出して六拍子のアクセントをなだらかに歌はす。 3 各段の終りの結合線による四拍を正しくのばさせる。 第二段及び第四段の第三小節にある「レシ・ソ・」の音程に注意する。 第五段の完全八度音程「ソ・ーソ」は滑らかに歌はせる。		
指導上の注意	5 4 3 2 1		

教授	配當時間	他教科の連絡
樂譜視唱	五時間	綴方・圖畫

蓮池



リズム單位 $\frac{6}{8}$ ♩♪♪ ♪♩♩ ♪♩♩ ♪♪♩ ♪♩♩ 𝅗𝅥 ♪♩♩ ♩. |

歌詞及び註釋

蓮池

一、丸葉・卷葉をそよがせて、
　朝風わたる池のおも。
　立つやささなみ、浮葉を越えて、
　まろびまろぶ露の玉。
　ああ、涼し涼し、
　あけぼの。

二、池のほとりにたたずめば、
　花の香おそふ袖袂。
　空は月しろ、ほのかに見えて、
　水に白し花蓮。
　ああ、涼し涼し、
　ゆふぐれ。

そよがせて＝そよそよと音を立たせて。
まろぶ＝ころ〳〵ところがる。
花の香おそふ袖袂＝袖のあたりによい匂が流れて來る。
月しろ＝月が出かかる時空の白み渡ること。

配當週	第二學期	九月	自至 二週 三週
題目	瀧		
構成	調子 ニ調長	拍子 3/4 4/4	音域 ニ→ホ

指導要項

目的

[形式的陶冶] 瀑布の涼味と壯快さを想像させ、大自然に對する美的觀照の態度を培ひ、歌曲を歌はせて爽快壯美の感情を養ふ。

[實質的陶冶] 三拍子と四拍子とを對比的に取扱ひ、其の特異性を知らしめ、併せて兒童の旋律感やリズム感及び拍子感を陶冶する。

樂譜指導の系統

拍子 17 混合拍子の指導

音程 21 [レ シ]

標號 33 クレッシェンド デクレッシェンド

鑑賞教材及指導要點

教材參考レコード 瀧 C三三一七四

鑑賞教材 **各國の民謠**

【要旨】民謠は國民の生活に最も關係の深いもので、民族的慣習や生活狀態を反映し、純朴な感情が素直に表現されて居る。且西洋の現代音樂は民謠から出發してをり、藝術的な大曲にも民謠は素材として取入れられて居る。故に各國の民謠の中、我國の兒童にも比較的關係の深い代表的なものを選び音樂的な特徴を知らせ、國民性をも窺知せしめ、純美なる情操の陶冶をはかる。

指導上の注意

1 躍進的な三拍子から壯重な四拍子に移る歌曲の氣分を歌詞と對比して理解させる。

2 强弱的及び抑揚的發想を充分指導すると共に轉調の意義と効果を知らしめる。

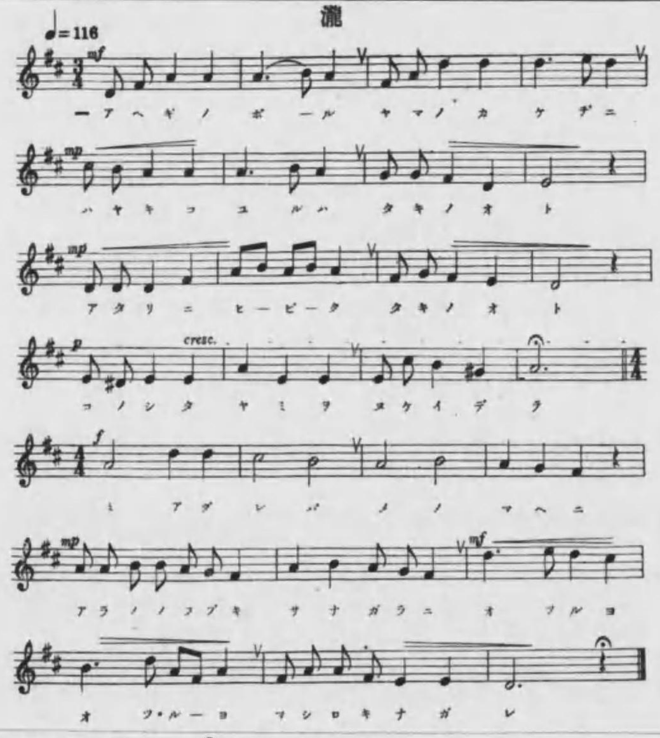
3 臨時記號に依る變化音程を正しく歌はせる。

4 發想記號「クレッシェンド」及び「ポーズ」を正しく指導する。

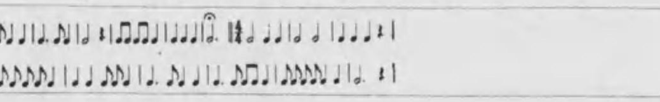
教授樣式	配當時間	他教科の連絡
樂譜視唱	五時間	瀧の寫生又は想像畫

瀧

♩=116



リズム單位



歌詞及び註釋

瀧

一、あへぎ登る山の懸路に、
はや聞ゆるは、瀧の音、
あたりにひびく瀧の音。
木の下闇を拔け出でて、
見上ぐれば、
目の前に、
荒野の吹雪さながらに、
落つるよ落つるよ、眞白き流。

二、露を含む風の冷たく
さと吹來れば、夏の日の
暑さも知らぬ岩の上、
木の下陰にいこひつつ、
見下せば、
足もとには、
幾百千の白龍の、
をどるよをどるよ、碧の淵に。

山の懸路＝山のがけ道、岩と岩との間の細い山道。
風の冷たく＝風が冷たく。
白龍＝白い龍のこと。

配當	第二學期	九・十月	自至 三週 五週
題目	風 〔番九〕		
構成	調子 ハ長調	拍子 3/4	音域 ハ→ホ

指導要項

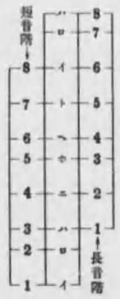
目的

〔形式的陶冶〕我國特有の民謡的情味と此の詩的表現の面白さを味はしめ、兒童の情緒生活を豐富にする。

〔實質的陶冶〕本歌曲獨特の民謡的情調を味はしめ、歌詞と歌曲の融合關係を指導して兒童の旋律感とリズム感の陶冶を圖る。

樂譜指導の系統

音階 6 「長音階と短音階」の指導

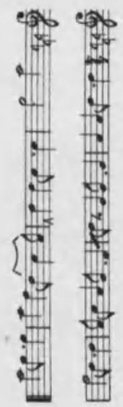


7 「ハ調の呼び方」指導

8 「ハ調長音階」の指導

標號 28 「スラー」と云ふ言葉の指導〔圓滑に〕

音程 22 〔ミ・ド〕



鑑賞教材及指導要點

教材參考レコード 風 C三三一七一 帝蓄一五五三五

鑑賞教材 各國の民謡

其の一 アメリカ〔オールドフォークス・アットホーム V一五六六 (ソプラノ) V一三二五〕〔懷しきケンタッキーの家 C八八六(ソプラノ)〕

何れもフオスターの作でニグロ民謡を取入れ、彼獨特な魅力と情味に溢れた旋律を作り出し、その作品は單にアメリカのみならず世界中に愛唱された。主に旋律を味はしめるのであるが「ソプラノ」については一七四頁の本欄「聲音の區別」を參照して復習的に指導する。

指導上の注意

1 民謡的な句調をとり入れて巧に表現してゐる此の歌詞の情味を感得させる。

2 前教材「瀧」の三拍子の部分と本歌曲とを對比して歌曲の構成とムードの關係を考察せしめる。

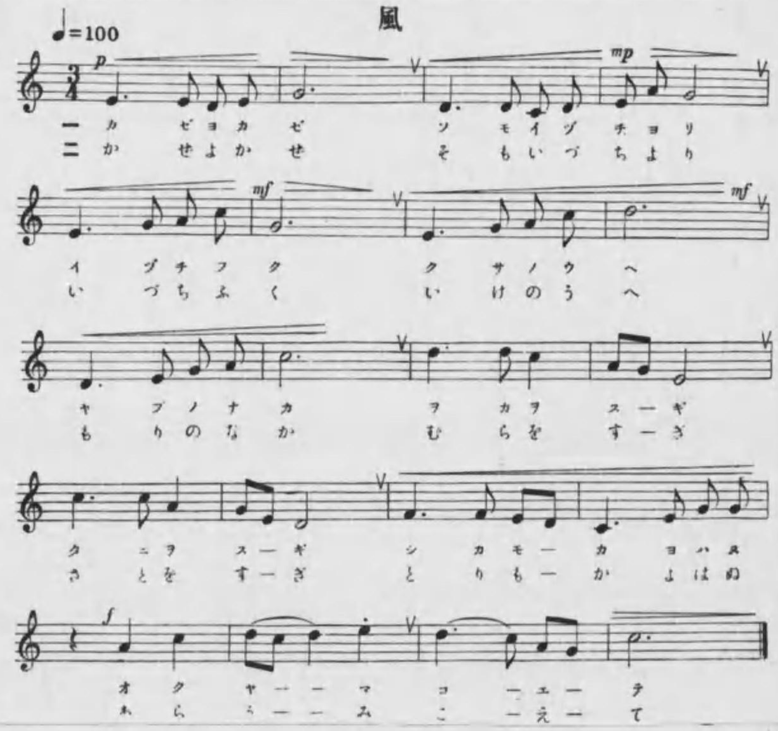
3 最初のリズムを充分に摑ませて、本歌曲特有のリズムを自由に歌はせる。

4 第五段第一小節の四分休符及び第二小節のスタッカートを効果的に取扱ふ。

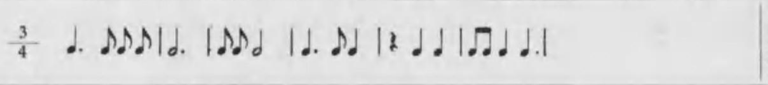
5 發想は兒童の發想感を尊重して出來るだけ自由に自然に指導したい。

6 此の歌曲獨特の新鮮な情味を歌ひ味はしめる。

教授樣式	樂譜視唱	配當時間	五時間	他教科の連絡	風と題する綴方



リズム單位



歌詞及び註釋

風

一、風よ風、
　そもいづちよりいづち吹く。
　草の上、やぶの中、
　岡を過ぎ、谷を過ぎ、
　鹿も通はぬ　奥山こえて。

二、風よ風、
　そもいづちよりいづち吹く。
　池の上、森の中、
　村を過ぎ、里を過ぎ、
　鳥も通はぬ　荒海こえて。

三、夜はふけぬ。
　燈消してねに行けば、
　泣くがごと、むせぶごと、
　戸をたたき、まどをうつ。
　風やうらやむ、　我が此のふしど。

四、夜は明けぬ。
　とく起出でて園見れば、
　草はふし、木はたふれ、
　花は散り、實は落ちぬ。
　風や荒れけん、　夜すがら此處に。

いづち吹く＝どこへ吹く。
むせぶ＝むせび泣く。風やうらやむ＝風が羨むのであらう。ふしど＝ねどこ。
風や荒れけん＝風が荒れたのであらう。

導要項

配當	第二學期	十月	自六週至七週
題目	故郷	〔十番〕	
構成	調子 ト調長調	拍子 3/4	音域 ニ→ホ

指導目的

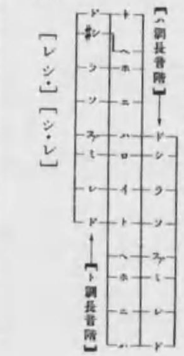
〔形式的陶冶〕 本歌曲特有の歌謡美を通して兒童の歌謡生活を潤し、併せて純美たる感情を養ふ。

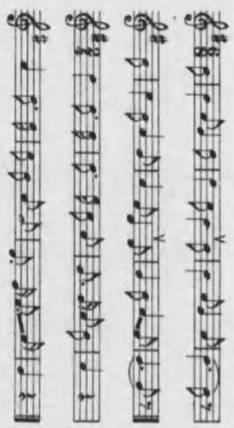
〔實質的陶冶〕 三拍子特有の歌ひ方を指導し、旋律の情味とリズムの美しさを味はせ歌曲の形態美を掴ませる。

教材系統の指導

音階 9 「ト調長音階」の指導

音程 23 〔レ・シ〕〔シ・レ〕





鑑賞教材及指導要點

教材參考レコード 故郷 C三三一七四 C三三四一六 唱遊 VJ三〇一二〇

其の二 イギリス〔ホームスキートホーム V一三五五(ソプラノ) C九〇五一五(四重奏)

前者は「埴生の宿」として知られ、後者は「才女」として知られたスコットランドの民謡である。

其の三 ドイツ ローレライ V七〇七五(アルト)

はローレライの傳説に取材したもので詩聖ハイネの作、ローレライとはビンゲンとコブレンツとの間のラインの右岸にある同名の岩の上にゐた水の精である。そして妙なる歌を歌ひ、漁夫や水夫達を誘引して岩と急流とにその生命を奪つたといふ。

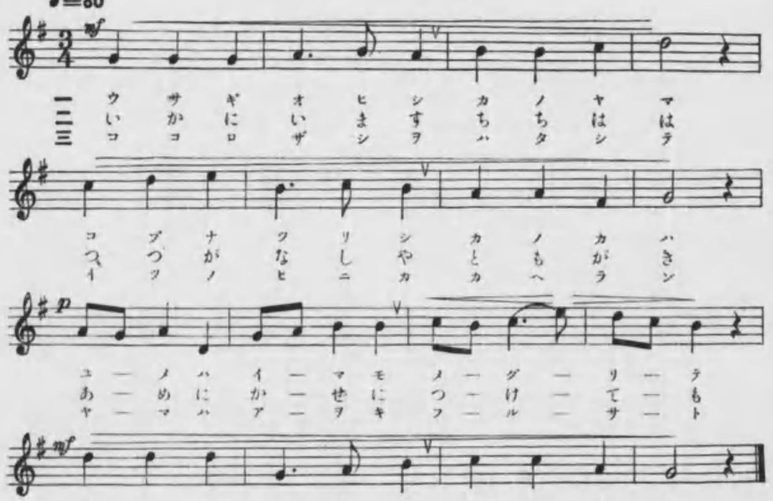
指導上の注意

1. 歌詞と歌曲の融合した歌謡の美しさを感得させる。
2. 旋律の相對關係を知らせ、此の形態に伴ふ發想の相對的關係を感得させる。
3. 三拍子の既習歌曲と比較し、本歌曲の旋律及びリズムの持つ特有の情味を味はしめ、更にこの獨特な美的効果を發揮する樣に歌はしめる。
4. 第三段の終りの四分休符を正しく一拍休ませること。
5. 第三段後半の發想を効果的に、又全曲を落ちつきのある情味的な發想で歌はせる。

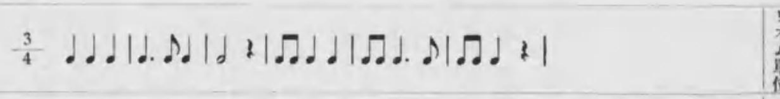
教授様式	配當時間	他教科との連絡
樂譜視唱	四時間	綴方・圖畫

故郷

♩=80



リズム單位 3/4



歌詞及び註釋

故郷

一、兎追ひしかの山、
小鮒釣りしかの川、
夢は今もめぐりて、
忘れがたき故郷。

二、如何にいます、父母、
恙なしや、友がき、
雨に風につけても、
思ひいづる故郷。

三、こころざしをはたして、
いつの日にか歸らん、
山はあをき故郷、
水は清き故郷。

夢は今もめぐりて＝今でも故郷の色々なことを夢にみて。
恙なしや友がき＝「恙」障り、病氣のこと。幼な友達は皆無事で居るだらうか。
いつの日にか歸らん＝何時頃歸ることが出來るだらうか。

配當	第二學期	十・十一月	自至 八十週
題目	秋 ［十一番］		
構成	調子 ヘ調長調	拍子 6/8	音域 ハ→ニ

指導要項	
目的	［形式的陶冶］秋の自然に對する朗らかな兒童生活の喜びを歌はせて、明朗快活な感情を養ふ。 ［實質的陶冶］六拍子獨特の歌ひ方と其の美しさを感得させる。又此の旋律美を通して兒童のリズム感や旋律感を陶冶する。
教授樣式	樂譜視唱
配當時間	五時間
他教科の連絡	［足の速の秋］［色景の秋］方綴

樂譜指導の系統

音階 10 「ヘ調長音階」の指導

拍子 18 小節形式の中間變化を指導する。

鑑賞教材及指導要點

教材參考レコード 秋 C三三一七四

其の四 ロシア ヴォルガの舟唄 V六八二二(バス) P一九九六〇(管絃樂)

誰にも知られて居るロシア民謡の一つ、舊ロシア帝政の下にヴォルガ河で舟を曳いてゐた奴隷生活者の唄で、そのリズムは曳船の動作から來てゐる。藝術的作品中の一つ。

其の五 伊太利 (イ)オーソレミオ V一〇九九 (ロ)サンタルチア V一二〇四

(イ)「おゝ私の太陽」の意、二拍子の曲である。伴奏の低音に出て來る單調なリズムがこの曲をして一層感銘深いものにする。(ロ)サンタルチアは聖ルチアの意でナポリの守護神である。

指導上の注意

1. リズムが單純であるから六拍子の强弱をなだらかに歌はせ、六拍子特有の流麗さと心地よさを歌ひ味はせる。尙「樂譜指導欄」の「拍子」の取扱ひ參照。
2. 特に息纏に留意し、其の後の八分音符を遲れない樣にする。
3. 指定された發想記號がないから、自然的な豐かな發想をつけて歌はせる。
4. 連結線の歌ひ方を充分指導する。
5. テムポが遲くならぬやう輕快に歌はせる。

秋

♪=160

一 トンボト ビカフノ ドケキーヒヨリ
二 はやしわ けゆきお ちぐりーひろひ

ワラヂキヤ ハンニカ ロークイ デタチ
たにをわ たりてき の―こか りゆき

ノベニヤ マベニサ ザノキーア ソーブア
きそふえ ものにこ ころは―い さ―むあ

アコノ―アキココチヨ―ヤ―
あこの―あきお も―しろや―

リズム單位 6/8 ♩♪♪ ♪|♩ ♪♫♪|♩. ♩ ♪|♩ ♪♪ ♪|♩. ♩ ♪|

歌詞及び註釋

秋

一、蜻蛉とびかふのどけき日和、
わらぢ・脚絆に輕くいでたち、
野べに、山べに、さざめき遊ぶ。
ああ、この秋、心地よや。

二、林わけゆき、落栗ひろひ、
谷をわたりて茸かりゆき、
きそふえものに心は勇む。
ああ、この秋、面白や。

とびかふ＝あちらこちら飛びかはすこと。
さざめき遊ぶ＝靡を立てて遊ぶ、さわいで遊ぶ事。
きそふえものに心は勇む＝人に負けない氣になつて落栗を拾たり、茸を狩つて行くと心持が自然に勇んで來る。

配當	第二學期	十月一日	自十二週至十週
題目	出征兵士 [十二番]		
構成	調 子	拍 子	音 域
	ハ長調	$\frac{2}{4}$	ハ→ホ

指導要項

目的

[形式的陶冶] 出征兵士の意氣と心情を想像させ、勇壯活潑の情を養ひ、併せて靈忠奉公の赤誠を涵養す。

[實質的陶冶] ハ調二拍子の特質が題材の持つ氣分とよく合致してゐることを知らせ、兄童のリズム感と旋律感を豐富にする。

樂譜指導の系統

拍子

19 「二拍子」の指導 [一小節を「強く弱く」二拍づつに唱ふ]

20 「$\frac{2}{4}$拍子」の指導

21 「$\frac{2}{2}$拍子」の指導

鑑賞教材及要點

其の六 スペイン ラパロマ V一三三八(ソプラノ) CJ一一七(管絃樂)

ラパロマは鳩といふ意味で、佗しい感傷的な旋律は人々の胸をうつ。よく船出の時等に歌はれる別離を悲しむ民謡である。カスタネットの響は異國的な氣分をそゝる。

其の七 ハワイ アロハオエ C九〇五一六(ハワイアンギター) V一二三五(ソプラノ)

題名は「さらば」「別れの歌」等の意、この曲はハワイがアメリカの屬領となつた際、時の女王が別れを惜しんで作曲されたもので、ハワイの代表的な民謡である。

指導上の注意

1 歌ひ方が粗雜にならぬ樣注意し、勇壯な中に落着きのある氣品に富んだ歌ひ方を指導する。

2 第一、二段終りの四分音符が長く重くならぬやうに。

3 四分音符の並列してゐる所は出來るだけ鮮明に落ちついて歌はせる。

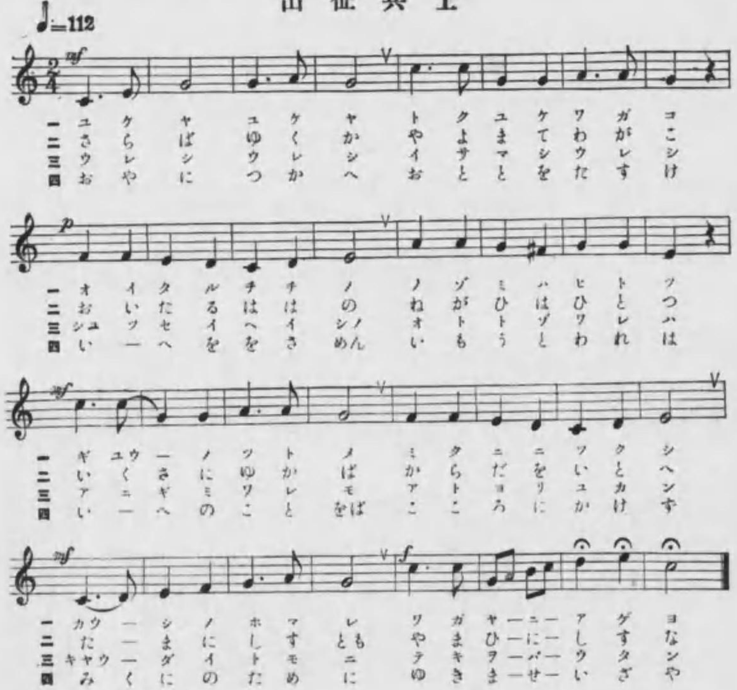
4 轉調の部分を發見させ、轉調の意味を復習し、轉調による全曲の氣分を味はせる。

5 第四段を發想豐かに歌はせる。

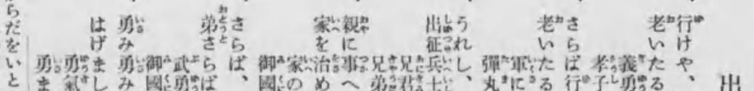
他教科との連絡	配當時間	教授樣式
〔交通〕〔國愛君忠〕身修	五時間	樂譜視唱

出征兵士

♩=112



リズム單位



歌詞及び註釋

出征兵士

一、行けや、行けや、とく行け、我が子。
老いたる父の望は一つ。
義勇の務、御國に盡くし、
孝子の譽、我が家にあげよ。

二、さらば行くか、やよ待て、我が子。
老いたる母の願は一つ。
軍に行かば、からだをいとへ。
彈丸に死すとも、病に死すな。

三、うれし、うれし、勇ましうれし。
出征兵士の弟ぞ、我は。
兄君、我も後より行かん、
兄弟共に敵をば討たん。

四、親に事へ、弟を助け、
家を治めん、妹我は。
家の事をば心にかけず、
御國の爲に行きませ、いざや。

五、さらば、さらば、父母、さらば。
弟さらば、妹さらば。
武勇のはたらき、命ささげて、
御國の敵を討ちたん、我は。

六、勇み勇みて出行く兵士。
はげましつつも見送る一家。
勇氣は彼に、情は是に、
勇まし、やさし、ををしの別。

からだをいとへ＝からだを大切にせよ。
ををしの別＝男らしい別。

配當週	題目	構成	指導要項
自十月十日 至十月三十日	燈臺	第二學期 十二月	
		子調 子拍 音域	
		變ホ長調 4/4 ♭ロ→♭ホ	

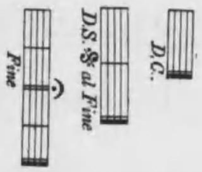
目的

［形式的陶冶］本歌曲特有の歌謠美を體驗させ、兒童の生活感を潤し、美感を養ふ。

［實質的陶冶］此の旋律及びリズムの均齊的な形式美を感得せしめ、兒童の旋律的形式感とリズム的形式感を陶冶する。

樂譜の系統

標號		
34	「ダ・カッポ」	反始記號の指導［始めから歌へ］
35	「ダル・セーニョ」	反復記號の指導［記號の所から反復する］
36	「フィーネ」	終止記號の指導［中途で終る］



鑑賞教材及指導要點

教材參考レコード　燈臺　C三三一一七六

鑑賞教材　**セレナーデ**

【要旨】セレナーデは「小夜樂」の意で夜靜かに聽く音樂である事と、多くヴァイオリンで奏せられることを知らしめ、本曲の優婉極りなき曲想を鑑賞せしめる。

1　ドルドラ作エルマン演奏　V一五三八

2　トゼルリ作シューメー演奏　V一三〇二

指導上の注意

1　此の曲歌に於ける「リズムの形式美」及び「リズムの統一美」を感得せしめる。

2　旋律の相對關係を充分指導し、樂曲形式の初歩の指導をなす。

3　曲全體が重苦しくならぬやう齒切れよく輕快に歌はせる。

4　各段終りの四分音符の時長を正しく。

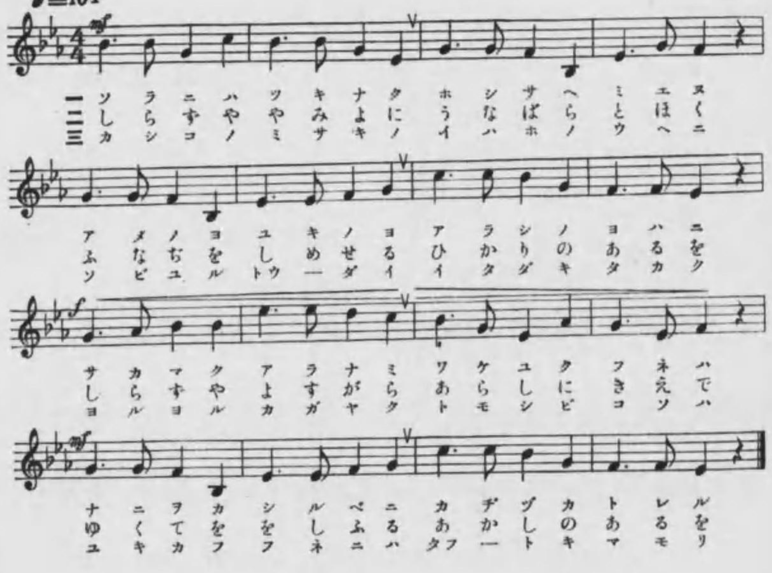
5　第一・第二・第四各段下行「レーソ」の音程を正確に歌はせる。

6　發想は極めて自然的に取扱ふ。

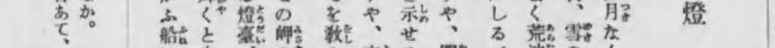
教授	樂式	樂譜視唱	配當時間	四時間	他教科の連絡	綴方・圖畫・理科〔電燈〕

燈臺

♩=104



リズム單位



歌詞及び註釋

燈臺

一、空には月なく、星さへ見えぬ
雨の夜、雪の夜、嵐の夜半に、
さかまく荒波分けゆく船は、
何をかしるべに舵柄取れる。

二、知らずや、闇夜に海原とほく
船路を示せる光のあるを。
知らずや、夜すがら嵐に消えで、
ゆくてを教ふるあかしのあるを。

三、かしこの岬の巖の上に
聳ゆる燈臺、頂高く、
夜夜輝くともし火こそは、
行きかふ船には尊きまもり。

夜半＝夜なか。
しるべ＝目あて、目標。

配當	題目	構成	指導要項
第二學期 十月	鎌倉〔番四十〕	調子 ホ短調	拍子 4/4
自十月至十五週		音域 ロ→ロ	

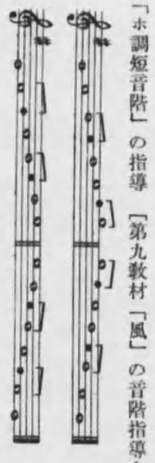
目的

〔形式的陶冶〕短旋法歌曲特有の情味を感得させると共に、歌曲を通して本歌詞の持つ詩的情味を味はせ、兒童の美的感情を陶冶する。

〔實質的陶冶〕短旋法特有の歌ひ方を指導し、短旋法の概念を基礎的に取扱ひ、短旋法獨特の旋律感を陶冶する。

樂譜指導の系統

音階 11 「ホ調短音階」の指導〔第九教材「風」の音階指導と關聯〕



鑑賞教材及指導要點

教材參考レコード 鎌倉 P三〇〇六 VJ三〇〇八四

鑑賞用レコード **スーヴェニール** V一三二五(クライスラー) V一三五四(エル・マン)

【要旨】世界的に知られてをる優婉極りなき此の本樂曲を鑑賞せしめて、純情優美な情操の陶冶をはかる。

1 スーヴェニールは「思ひ出」の意。ヴァイオリンの獨奏曲である事を知らしめ、獨奏及び伴奏の意義と役目について復習する。拍子の遲速は藝術的表現上大切なことを說明する。

2 三部形式より成る事。二重音に注意せしめ、樂曲の表現する內的な氣分を檢討する。

指導上の注意

1 短音階を基礎的に取扱ひ、本歌曲を音階的に解剖して長音階との比較對照をなし其の特質を知らしめて、短旋法的旋律の動きを指導する。「風」の「樂譜欄」音階指導參照。

2 音階の主旨を知らしめて兒童の調子感を明確にする。又旋律の動きより樂句の對比と樂段の照應關係を知らせ、樂曲の形式美を感得させる。

3 附點二分音符は充分時長を保つて。第三段第三小節のリズムと音程とを正確に。

4 發想は流麗に優雅に附すること。

教授樣式	配當時間	他教科の連絡
樂譜視唱	四時間	讀本〔鎌倉〕

鎌倉

♩=120

ヒばテのヂは タけミしツて ヅゆニはノで ソえギざヒー イこミきマう

ノかヲのノに マざマし一一 ハじハいウう ダぐ

ガくノやヤら リらヒるミく チく一ぼカま シごュのリか 一二三四五六

ノくバーシに 一かケふてへみ ちユいカら イーギほリう ノだスおタみ

キのチきキの サんタかマこ ガのシたダみ ラんノにヲぬ ムわキりノせ ナせ一だヅき イはュひシつ 一二三四五六

一すロとツし ウヤまシあツぺ ヂ ンしャのビぬ セはンよノき コおオよシわ シつ一きヲだ ぜぶノほトみ 一い一一一一 ウだウとヒな トダ ギーンやシの ルのマばシん 一ざチはへふ ツろハとカひ 一二三四五六

リズム單位 4/4 ♩. ♪♩ ♩ | ♩♩♩ | ♩. 𝄾 | ♩. ♪♩. ♪ |

歌詞及び註釋

鎌倉

一、七里が濱のいそ傳ひ、
稻村崎、名將の
劒投ぜし古戰場。

二、極樂寺坂越え行けば、
長谷觀音の堂近く、
露坐の大佛おはします。

三、由比の濱邊を右に見て、
雪の下道過行けば、
八幡宮の御社。

四、上るや石のきざはしの、
左に高き大いてふ、
問はばや、遠き世世の跡。

五、若宮堂の舞の袖、
しづのをだまきくりかへし
かへしし人をしのびつつ。

六、鎌倉宮にまうでては、
盡きせぬ親王のみうらみに、
悲憤の涙わきぬべし。

七、歷史は長し七百年、
興亡すべてゆめに似て、
英雄墓はこけむしぬ。

八、建長・圓覺古寺の
山門高き松風に、
昔の音やこもるらん。

名將＝新田義貞のこと。
劒投ぜし古戰場＝北條勢の軍を攻めようとして義貞が稻村ヶ崎に來て太刀を海中に投じて祈願したので水が引いたと云ふ場所。
歷史は長し七百年＝鎌倉幕府に於ける源氏三代、北條氏八代の武家の興亡の跡をさす。
英雄墓＝頼朝の墓。

配當	第三學期	一月	自至	二週
題目	鷲［十五番］			
構成	調子 ト調長	拍子 $\frac{3}{4}$	音域 ニ→ホ	

指導要項

目的

［形式的陶冶］歌詞の雄大な氣持をさながらに表現してゐる此の歌曲の美しさを味はしめて、勇壯にして慈愛の感情を養ふ。

［實質的陶冶］本歌曲特有の形式美を通して、兒童の旋律的形式感を陶冶し、三拍子特有のリズム感を養ふ。

樂譜指導の系統

調子

5　調子記號の種類「變記號（フラット）」と「嬰記號（シャープ）」［第五學年第十八教材「兒島高德」と關聯］

6　調子の種類と呼び方

鑑賞教材及指導要點

教材參考レコード　鷲　C三三二四一

鑑賞レコード　**月光の曲**　CJ五三五五―六　VJB三九―四〇

【要旨】ソナタの意義及びソナタ形式についての概略の知識を與へ、月光の曲を鑑賞せしめ、此の名曲の作者ベートーヴェンの生涯と業蹟の大要を知らしめる。二〇六頁「鑑賞欄」參照。

1　ソナタは歌謠形式から發達して來たもので一般に器樂曲を意味する。普通四つの樂章の組合せになつたもので、その中第一樂章及び第四樂章はソナタ形式で作られる。月光の曲は三つの樂章より成り第一樂章は省かれ最終樂章がソナタ形式で作られてゐる。

指導上の注意

1　本歌曲の特長である壯快なリズムを齒切れよく明快に歌はせる。又樂句の持つリズム的特質が全曲の氣分を決定する上に如何に重大であるかを知らせる。

2　三拍子特有の發想を充分表現させる。

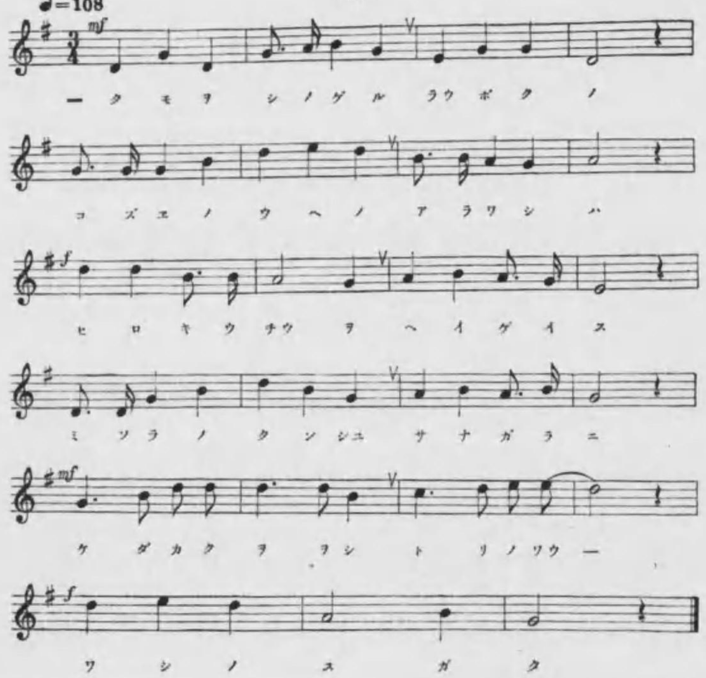
3　第五段の八分音符が走り氣味にならぬやう充分時長を保つて歌はせる。

4　附點八分音符と十六分音符との關係を正しく歌はせる。

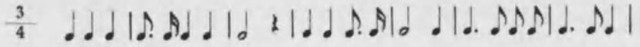
他教科の連絡	配當時間	教授樣式
「鷲」と題する綴方	三時間	樂譜視唱

鷲

♩=108



リズム單位



歌詞及び註釋

鷲

一、雲を凌げる老木の
梢の上の荒鷲は、
廣き宇宙を睥睨す、
　み空の君主さながらに。
氣高く、雄雄し、
　鳥の王、鷲の姿。

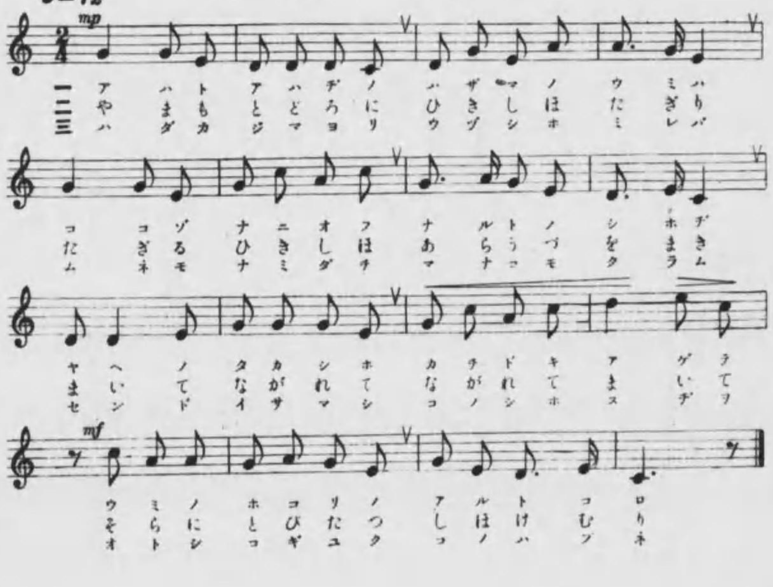
二、怒濤逆卷く絶海の
孤島に巣くふ荒鷲は、
暴風雨をついて天翔り、
　育む雛に餌を運ぶ。
やさしく、つよし、
　鳥の王、鷲の心。

雲を凌ぐ＝雲を押し別けて其の上まで高く聳える。
宇宙を睥睨す＝天地四方をにらんで見下す。
君主さながらに＝恰も君主そのものの樣に。
雄々し＝男らしい、勇しいこと。
絶海＝陸から遠く離れた大洋のまん中。
孤島＝はなれ島。
暴風雨をついて＝暴風雨に向つて勢よくつき進んで。
つよし＝けなげなこと。元氣な氣象。

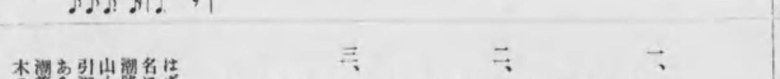
配當	題目	構成	指導要項
第三學期	鳴門［番外十六］	調子 ハ長調	目的 ［形式的陶冶］此の教材の民謡的な朗らかさを充分味はせ、本歌曲獨特の歌謡價値を體驗させ、兒童の美的感情を陶冶する。［實質的陶冶］歌詞歌曲共民謡風な情趣に富んでゐる本歌曲に依り民謡的な旋律を味はしめ、その旋律感とリズム感を陶冶する。
一月	鳴門	拍子 2/4	樂譜指導の系統 拍子 22 ［切分音］と云ふ言葉の指導 標號 37 速度の數へ方 ♩=72 60秒÷72×2×16=27秒弱
二週	鳴門	調子 ハ→ホ	鑑賞教材及指導要點 1 教材參考レコード 鳴門 C三三一六六 2 ソナタ形式 次の三つの部分から出來てゐる。Ⅰ提示 Ⅱ展開 Ⅲ再現（提示部の反覆） 第一樂章 ソナタ形式、急速度 3 ソナタの組立樣式 第二樂章 歌謡形式、變奏曲、ロンド形式等、緩徐。 第三樂章 メヌエット又はスケルツオ等、急速度。 第四樂章 ロンド形式、ソナタ形式、フーグ形式等の組立、急又は最急速度。
三週	鳴門	音域 ハ→ホ	指導上の注意 1 歌詞を韻律的に取扱つて民謡特有な親しみを想起させ、樂曲の氣分と合致してゐる關係をリズム及び旋律の上から感得させる。 2 民謡的なのんびりした情趣を歌謡の上に充分表現させる。 3 感情に動かされて野卑な粗雑な歌ひ方にならぬ樣注意する。 4 第四段最初の八分休符を正しく。指定のテンポを嚴守して歌はせる。 5 發想は素朴に、兒童の發想感に訴へて指導する。
教授樣式	樂譜視唱	配當時間	三時間
他教科の連絡	讀本［鳴門］		

鳴門

♩=72 mp



リズム單位



歌詞及び註釋

鳴門

一、阿波と淡路のはざまの海は、
此處ぞ名に負ふ鳴門の潮路。
八重の高潮かちどき揚げて、
海の誇のあるところ。

二、山もとどろに引潮たぎり、
たぎる引潮あら渦を卷き、
卷いて流れて、流れて卷いて、
空にとびたつ、潮けむり。

三、裸島より渦潮見れば、
胸も波だち眼もくらむ。
船頭勇まし、此の潮筋を、
落し漕ぎゆく、木の葉舟。

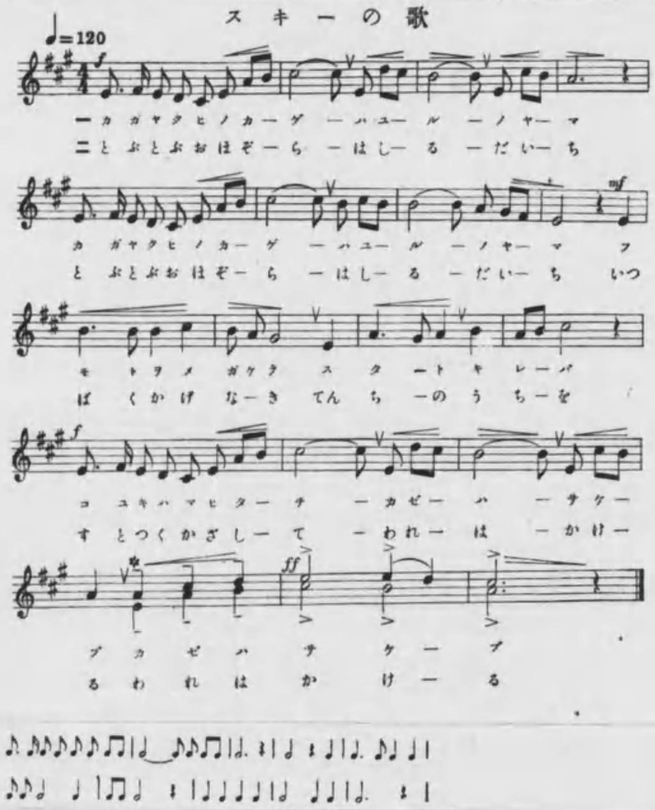
はざまの海＝中間にある海。
名に負ふ＝名高い。
潮路＝潮がさしたり引いたりする潮筋。
山もとどろに＝山に轟き渡る。
引潮たぎり＝引潮が沸き上ること。
あら渦を卷き＝荒々しい渦を卷き。
潮筋＝潮の流れる路筋。
木の葉舟＝小舟の形容。

配當	第三學期	二月	自至 四週 六週
題目	〔十七番〕 スキーの歌		
構成	調子 イ調長	拍子 4/4	音域 ♯ハ→ニ

指導要項

目的	〔形式的陶冶〕 兒童の生活に親しみ深い此の歌曲を歌はせて兒童の生活感を潤し、運動の快活さを想像せしめ、勇壯な感情を養ふ。 〔實質的陶冶〕 輕快な旋律とリズムとを通して、兒童の旋律感及びリズム感を陶冶し、重唱に依り和聲感の陶冶を圖る。
樂譜指導の系統	**和聲** 1 「重なる音程」とは何か 一七八頁「瀬戸内海」の樂譜欄「列ぶ音程」に對して「重なる音程」の指導をなす。 2 「和音」とは何か 〔音の重なつたもの〕 3 「三和音」とは何か 〔三つの音の重なつたもの〕 4 〔よく合ふもの〕 5 〔よく合はぬもの〕
鑑賞教材及指導	教材參考レコード スキーの歌 C三三一七六 4 ソナタの意義とソナタ形式の大要について知らしめる。 5 ベートーヴェンの生涯と業蹟 一七七〇年ドイツのボンに生る。貧困と病苦と戰ひ不朽の業蹟を殘した。古典派を完成すると同時に次の時代のロマン派の基礎を作つた。 6 「月光」の組立 第一樂章 アダヂオ 嬰ハ短調二分の二拍子單純三部形式。 第二樂章 アレグレット 變ニ長調四分の三拍子複合三部形式ミヌエット風な樂曲。 第三樂章 プレストアジタート 嬰ハ短調四分の四拍子ソナタ形式によつて作らる。
指導上の注意	1 リズムも音程も比較的困難な個所が多いから、最初はテムポを緩かにして正確に指導する。 2 發聲を出來るだけ輕快にして、特に息纏に注意を拂ひ歌曲の氣分を充分表現させる。 3 重音の部分の取扱ひに於ては和聲的な快味を感得させる。「樂譜欄」參照。 4 八分音符の連續してゐる部分のリズムを正確に歌はせる。 5 結〝合線〟の意味と此の唱法を充分に會得させる。 6 本歌曲獨特の明快な旋律と跳躍的なリズムの面白さを觀照させる。

教授樣式	配當時間	他教科の連絡
樂譜視唱	五時間	繪方・圖畫



リズム單位

歌詞及び註釋

スキーの歌

一、輝く日の影、はゆる野山、
輝く日の影、はゆる野山、
流を目がけてスタートきれば、
粉雪は舞立ち、風は叫ぶ、
風は叫ぶ。

二、飛ぶ飛ぶ大空、走る大地。
飛ぶ飛ぶ大空、走る大地。
一白影なき天地の中を
ストツクかざして我は翔る、
我は翔る。

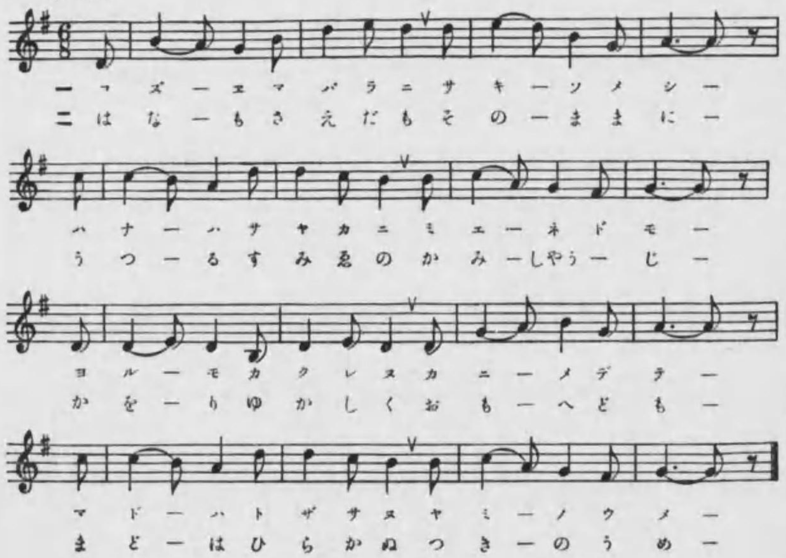
三、山越え、丘越え、下る斜面。
山越え、丘越え、下る斜面。
忽ちさへぎる谷をば目がけ、
躍ればさながら飛鳥の心地、
飛鳥の心地。

はゆる＝光ること、照ること。
ストツク＝スキーに用ひる輪のついた杖。
かざす＝ここでは持ち上げる意味。
飛鳥の心地＝空中を飛ぶ鳥の樣な氣持がする。

配當	第三學期	二月	自至 六週 八週
題目	夜の梅〔十八番〕		
構成	調子 ト長調	拍子 6/8	音域 ロ―ホ

指導要項	
目的	[形式的陶冶] 此の旋律の美しさや情味及びリズムの美しさを歌はせて、優美な感情を養ふ。 [實質的陶冶] 旋律の形態美を通して兒童の旋律的形式感を陶冶し、六拍子特有のリズムの美しさを歌はせてリズム感を陶冶する。
樂譜指導の系統	音程 24 [ソ・ミ]
鑑賞教材及指導要點	鑑賞教材 シュフォニー(交響管絃樂) 【要旨】 シュフォニーの意義及び構成樣式を知らしめ、名曲に親しませる。 意義 1 シュフォニーは器樂の最高の形式である。 2 シュフォニーは器樂の最高の形式である。 組立樣式 1 オーケストラの爲のソナタで構造はピアノソナタと略同樣。 2 第一樂章アレグロソナタ形式 急速 第二樂章アンダンテかアダヂオ又ラルゴ 緩徐。 第三樂章メヌエットかスケルツオ 輕快 第四樂章アレグロソナタ形式ロンド形式 急速。
指導上の注意	1 旋律の流れを吟味して各段の照應關係を發見させ、樂曲の形態美を感得させる。 2 單純なリズム形式であるが、六拍子としては典形的な樂曲であるから、本曲によつて流麗優美な六拍子特有の曲想を感味させる。 3 弱起の歌ひ方を指導し、リズムのアクセントに留意して優美に歌はせる。 4 拍子は最初ゆるやかな六拍子で練習し、習熟の後は二拍子に數へる樣指導するもよし。 5 スラーの効果と歌ひ方を指導する。
教授樣式	樂譜視唱式
配當時間	四時間
他教科との連絡	圖畫、科

夜の梅



リズム單位 6/8 ♩ ♪♪ ♪|♩. ♪♪|

歌詞及び註釋

夜の梅

一、梢まばらに咲初めし
花は、さやかに見えねども、
夜もかくれぬ香にめでて、
窓はとざさぬ闇の梅。

二、花も、小枝もそのままに
うつる墨畫の紙障子。
かをりゆかしく思へども、
窓は開かぬ月の梅。

さやかに＝はつきりと。
香にめでて＝香を愛して。
第一歌詞の意味＝暗夜の情景で、ぼつ〳〵と咲きかけて來た梅は、暗くてその花ははつきりと見えないが餘り香りがよいので、窓をしめる氣持がしないと言ふ心持を詠んだもの。
第二歌詞の意味＝月の光で窓の障子に映つた梅の花や小枝は墨繪の樣に面白い。窓を開けてその香に觸れたいが、開ければ墨繪が消えてしまふので開ける氣持になれないと云ふ意。

配當	題目構成	導要項
週	自至	第三學期　二・三月
週	入十	

〔十九番〕あふげば尊し

域	音	子	拍	子	調
	♯二→ホ		6/8		ホ長調

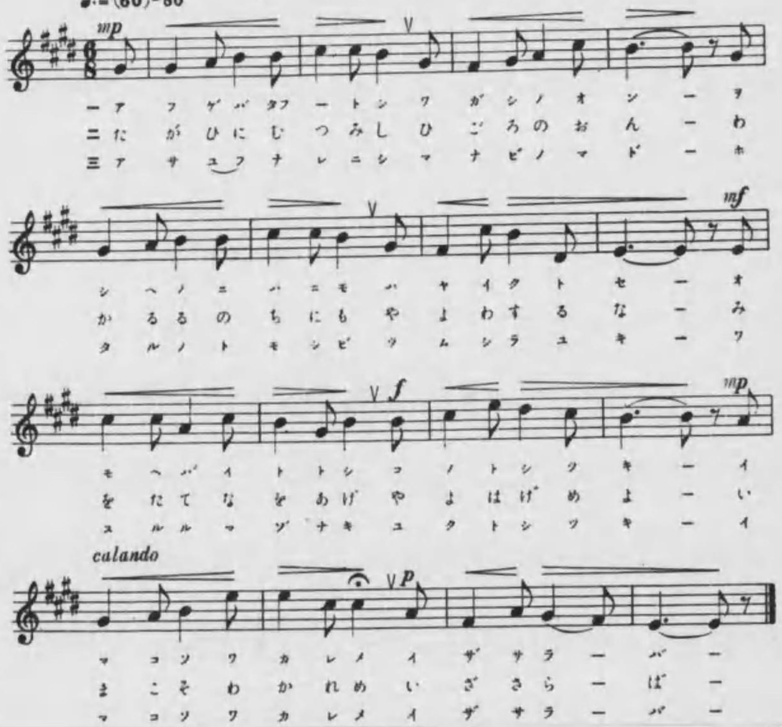
指導上の注意	鑑賞教材及指導要點	統系の導指譜樂	目的
1 尋常科最後の歌曲であり又晴の卒業式當日の最終の歌でもあるから、兒童の既習能力を充分發揮して歌はせる樣にする。便宜「ニ長調」で歌はせてもよい。 2 第四段の「ファミファ」及び「ファレファ」の音程に留意すること。 3 息纒を正しく充分にして、各段最終の五拍の時長を充分に保つて歌はせる。 4 ポーズを有効に指導し、最後の部分を少し弱めて歌はせる。 5 發聲は情味的に、又六拍子特有のリズムの美しさを表現させる。	教材參考レコード　仰げば尊し　V五三六四九 鑑賞レコード　ベートーヴェン作曲第六「田園」シムフォニー　V六九三九—四三 1 「田園」は作曲者自身がつけた標題で、自然の情趣から受けた印象を音樂にしたものである。 2 標題樂と絶對音樂に就いて説明する。 3 全曲は五つの部分より成る。四樂章以上の曲もあり、順序は組立樣式に從はぬ曲もある。 4 第一樂章田園へ到着しての朗らかな感覺の目覺め。第二樂章小川のほとりの景色。第三樂章農夫の集ひ。第四樂章雷雨。第五樂章牧歌。嵐の後の喜ばしい感謝の感情。	**拍子**　六拍子に於ける節奏のアクセントを指導する。出來るだけ、だらかな强弱で美しく生き〳〵と歌はせる。

他教科の連絡	配當時間	教授樣式	樂譜視唱
	五時間		

〔形式的陶冶〕卒業生としての感謝と喜びを感ぜしめ、兒童の生活感を潤し、溫愛の情を養ふ。
〔實質的陶冶〕本歌曲を授けて卒業式の準備をなす。六拍子特有の歌ひ方を指導し、兒童の旋律感及びリズム感を陶冶する。

あふげば尊し

♩.=(60)-80



一　あふげば　たふとし　わが　師の　恩　教へ　の　庭　に　も　はや　いく　とせ　おもへば　いと　疾し　この　とし　月　今　こそ　わかれめ　いざ　さらば
二　互に　むつみし　日ごろの　恩　わかる　る　後に　も　やよ　わする　な　身を　たて　名を　あげ　やよ　はげめよ　いま　こそ　わかれめ　いざ　さらば
三　朝ゆふ　なれにし　まなびの　窓　ほたるの　ともし　火　つむ　白雪　わする　る　まぞなき　ゆくとし　月　今　こそ　わかれめ　いざ　さらば

リズム單位

歌詞及び註釋

あふげば尊し

一、あふげばたふとし、
わが師の恩。
教の庭にも　はや　いくとせ。
おもへば　いと疾し、このとし月。
今こそわかれめ、
いざ　さらば。

二、互にむつみし
日ごろの恩。
わかる後にも、やよ、わするな。
身をたて、名をあげ、やよ、はげめよ。
いまこそわかれめ、
いざ　さらば。

三、朝ゆふなれにし
まなびの窓。
ほたるのともし火、つむ白雪。
わするる　まぞなき、ゆくとし月。
今こそわかれめ、
いざ　さらば。

教の庭にもはや幾年＝學校へ入學してからもはや何年になるであらうか。
いと疾し＝甚だはやく過ぎた。
別れめ＝別れむに同じ。別れよう。
身を立て名を擧げ＝立派な人になれと云ふ意。
忘るゝ間ぞなきゆく年月＝忘れる暇も無く年月が過ぎたと云ふ意。

音　樂

月光のなかに紆りて
目に見えぬ音樂の網……
一切のものは靜かに耳を澄し
あるとしなき微風をみつむ。
ああかの月光のなか風のなか
細けれどしなやかに吊るものあり、
樹木は次第に目をとぢ青ざめゆき
韻律の痛みに腕をさしあげそめたり。——
一切の姿を、一切の心を、
音樂の綱は徐ろにひきしめ、
柔らかなる窒息のなかに萬象を導く。

——柳澤　健——

高等一學年唱歌指導の觀點

◇高等一學年兒童の音樂性は、歌詞や曲調に對して、其の感情的內容を深く味ふ樣になるから、歌詞や歌曲に對する、美的觀照の指導を深めるべきである。

◇又以上に述べた、兒童の美的判斷力に訴へて、歌詞や歌曲に於ける內容と其の表現形式との關係や、歌詞と曲調の調和關係などを感得させる指導も必要である。

◇本學年兒童の中には、變聲期で發聲の自由が利かない兒童が多いから、鑑賞に依る美的體驗の機會を多く與へる必要がある。

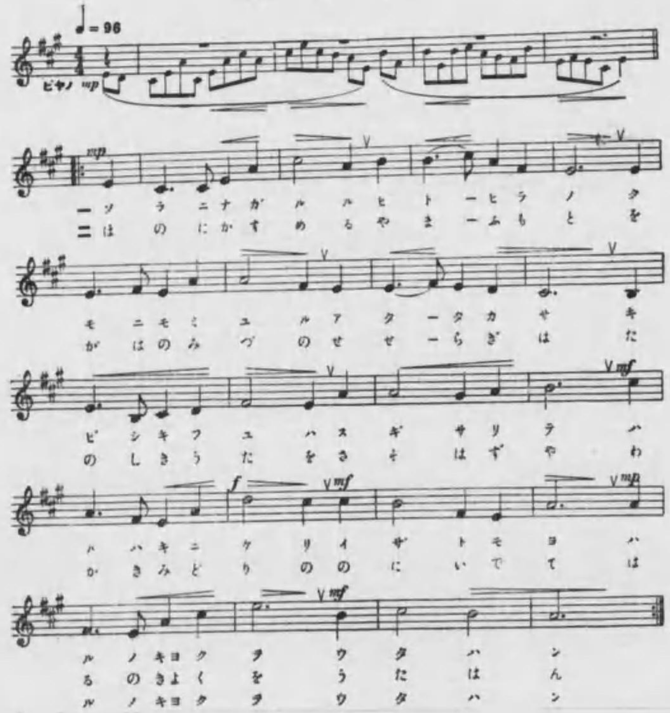
◇本學年兒童は想像性の發達に伴つて象徵的な詩を味ひ得る樣になつて來るから、暗示的な指導に依つて詩の持つ象徵味を味はしめることがよい。

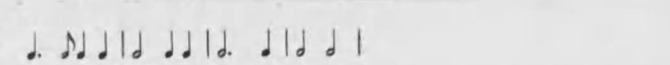
配當	題目	構成	指導要項
第一學期　四月　自至　一週　四週	曲の春 [女] [一番]	調子：イ長調　拍子：4/4　音域：ロ→ホ	

指導上の注意	鑑賞教材及指導要點	樂譜指導系統	目的
1 旋律の大部分が低い所を流れてゐるから、發聲に留意して低音を明るく。 2 休符のないことに留意して息繼の前の音が短かくならぬ様に。 3 歌曲觀照として第三段の終りから四段に於ける「施律の樂しい情味」及び全曲の伸びやかさや長閑さを歌ひ味はしめる。 4 伴奏は主旋律を明瞭に、そして第三段の終のミドミソ・ドは極くレガートに。第四段第二及び第三小節は左手にメロディーがある事に留意して。第六段の第三・四小節も極めて弱く彈く事。	鑑賞教材　舞曲形式 【要旨】舞曲は其の種類が最も多く、其の起源は多く民謡から發達して、歌謡形式に依るものが多い。其の地方により各々特有の拍子・リズム・速度を有ち名稱も各々異つてゐる。 主なる種類　ワルツ、メヌエット、ガボット、マヅルカ、ポロネーズ、ハバネラ、ボルカ、タランテラ、アルマンド、クーラント、サラバンド、スケルツオ、ボレロ、ジグブーレ、バスピード、アングレー、カラタ、ガロップ、コチロン、リール等がある。 鑑賞用レコード　1ワルツ名曲集　CJ三二二八　2碧きダニューブの流れ　V六五八四	樂譜指導系統 發想記號の指導 1 mp [メッツォ　ピアーノ] やゝ弱く 2 mf [メッツォ　フォールテ] やゝ強く 3 ═══ [デミヌエンド] 段々弱く 4 mf ═══ やゝ強く歌ひ出してだんだん弱く 音程 1 [ソレ]	[形式的陶冶] 春を謳歌せるこの歌曲を唱はせて、兒童に明朗な歌謡美を味はしめ、彼等の心情を優美に導く。 [實質的陶冶] 弱起四拍子の唱法と、レガート唱法に習熟せしめ、春への希望に滿ちた流暢な旋律とリズムを通して、兒童のリズム感と旋律感を陶冶する。

他教科の連絡	配當時間	教授樣式
圖畫科 [春の景色]・[緞方科]	四時間	唱歌譜樂

春の曲





リズム單位

歌詞及び註釋

春の曲

一、空に流るる　ひとひらの
雲にも　見ゆる　あたたかさ。
きびしき冬は　過ぎさりて、
春は　來にけり。いざ友よ、
春の曲を　うたはん。

二、ほのに霞める　山ふもと、
小川の水の　せせらぎは、
たのしき歌を　さそはずや。
若き　みどりの　野に出でて、
春の曲を　うたはん。

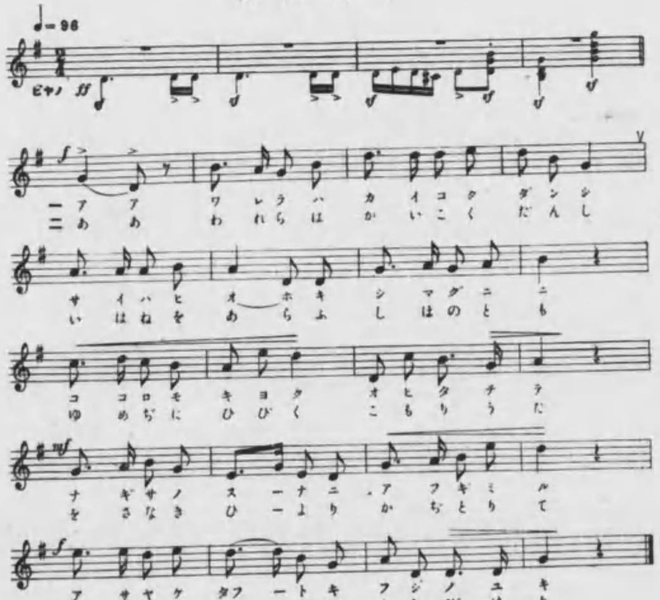
三、木木のこずゑに　花ひらき、
ほのぼの　にほふ　草の色。
あかるく歌ふ　諸鳥の
聲に　あはせて、いざ友よ、
春の曲を　うたはん。

ほのに＝仄かに。
ほのぼの　にほふ＝ほのぼのと光る樣な光澤を持つて居る。
せゝらぎ＝淺い瀬の流れる音。
若き緑＝若草の緑に萌え出した野邊。

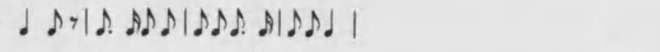
配當	第一學期	四月	自至 一週 四週
題目	海國男子 〔番 二〕		〔明〕
構成	調 子	拍 子	音 域
	調 ト長調	2/4	ニ→ホ

指導要項	
指導の目的	〔形式的陶冶〕 海國男子の詩を詠んだこのリズミカルな歌曲を味唱せしめ、海國男子の意氣を想はしめ、勇壯快活なる心情を養ふ。 〔實質的陶冶〕 この樣なリズミカルで勇壯な歌曲をマルカート風に唱謠することに習熟させ、同時に兒童のリズム感と旋律感を陶冶する。
樂譜指導の系統	標號 5 *ff* 〔フォールティッシーモ〕 極く強く 6 *sf*> 〔スフォール ツァンド〕 この音のみ特に強く 音程 2 〔レソ・〕〔ソ・ファ〕
教材及指導要點	鑑賞教材 **組曲形式** 【要旨】 組曲についての概略の知識を與へる。組曲はソナタやシムフォニー形式の先驅ともなるべきもので、少ないのは四個多いのは是れ以上の舞踏曲を以て編成したものである。曲は何れも同調子である爲め節奏や速度に變化を與へて居る。形式は古典的なものを除いては餘程自由になつて來た。 鑑賞用レコード ベールギュント第一組曲(グリーク) V三五七九三—二〇二四五 組合せ (一)朝 (二)オーゼの死 (三)アニトラの舞踏 (四)山王の廣間にて
指導上の注意	1 全曲をリズミカルに、勇壯にはぎれよく、軍歌を歌ふ樣な氣持で歌ふこと。 2 第三段第三小節のソ・ファの短七度を正確に、最後はデミヌエンドでなく、わずかのリットで。 3 第三段第二小節のラ及び第五段の第一、第二小節の最初の音はスフォールツァンドに。 4 全曲をマルカート風に唱奏することが極めて大切である。 5 伴奏ははぎれよく、輕快に。第三段の最後の小節の伴奏はリズミカルに。
教授樣式	樂譜視唱
配當時間	四時間
他教科の連絡	

海國男子



リズム單位



歌詞及び註釋

海國男子

一、ああ、我等は　海國男子。
幸多き　島國に、
心も清く　生ひ立ちて、
渚の砂に　仰ぎ見る
朝燒たふとき　富士の雪。

二、ああ、我等は　海國男子。
岩根を洗ふ　潮の音も、
夢路にひびく　子守歌。
幼き日より　舵とりて、
海行く業を　學びけり。

三、ああ、我等は、海國男子。
望は翔る、海遠く。
心に抱く　あこがれは、
波乘越ゆる　大艦に
鄕きなびく　軍艦旗。

四、ああ、我等は　海國男子。
アジヤにつづく　大海は、
響も高き　日本海。
かの武夫の　血をくみし
我等の血潮　高鳴りぬ。

五、ああ、我等は　海國男子。
浦邊の住家　睦ましく、
富は盡きせじ、太平洋。
朝日の海に　帆を張れば、
波はほがらに　招くなり。

潮の音＝波の音。
高鳴る＝意氣の盛んなこと。
あこがれ＝思ひこがれる。
望は翔ける＝望は鳥の樣に飛んで行く。

配當	第一學期	五月	自五週至八週
題目	鷗	[番 三]	[女]
構成	調子	拍子	音域
	變イ長調	4/4	♭ホ→♭ニ

指導要項

目的

[形式的陶冶] 長閑な春の水邊に眠る鷗の姿を主題として描いたこの歌曲を味唱せしめ、靜寂の感に浸らしめると同時に、兒童の美的情操を陶冶する。

[實質的陶冶] 變イ長調の視唱と、レガート唱法に習熟せしめ、この閑靜で平明な歌曲を通して兒童のリズム感・旋律感・發想感等を陶冶する。

統系の導指譜樂

標號 7 *rit* [リターダンド] だんだんおそく
8 *poco rit* [ポーコ リターダンド] 少しおそく

音程 3 [ソ・ド] [ド・ソ・]

教材及導指

鑑賞教材 序曲形式

【要旨】 序曲と前奏曲及び先導曲の意義を知らしめる。序曲は交響樂の前身で、歌劇や神劇の幕の開く前に演奏され、劇の準備として吾々の心を劇の氣分に向はしめ、豫備知識を授けるものである。樂曲は獨立な形式を以て現れ、作曲形式はソナタアレグロ形式か又は此の形式に準じたもので作られる。前奏曲・先導曲は同樣なもので規模が小さい。一五四頁〔序曲〕參照

鑑賞用レコード 1 ウィリヤムテル序曲復習。〔一五四頁參照〕
2 天國と地獄(序樂曲) CJ六一九 3 フイガロの結婚序曲 C三三三三八

指導要點

1 *mp* 又は *p* の變化を餘りつけずに、又クレッシェンド等もひかへ目にすること。
2 水の流れの「が」はアクセントを充分付けてテヌートするとよろしい。
3 全曲に流れて居る閑靜の氣持を忘れぬ樣に、レガートに唱奏する。
4 前奏の第四小節の最初の上音はテヌートすると充分な効果を得られる。
5 伴奏第四段の最後の變二音は極く極く弱く彈くこと。又最後の段の第三小節からはソフトペダルを使用して、テヌート氣味に唱奏する。

指導上の注意

教授樣式

唱視譜樂

配當時間

四時間

他教科の連絡

鷗

♩=96

一 ユ メ ヤ ミ ル ラ ン ケ フ ー モ マ タ
二 ゆ め な さ ま し そ か は ふ ね の
三 ユ メ ヂ タ ド リ テ ミ ギ ハ ベ ノ

ミ ギ ハ ニ ネ ム ル カ モ メ ド リ
ふ な う た し げ く き こ え ね ば
ミ ヅ ニ ス ガ タ モ ウ ツ シ ツ ツ

ミ ヅ ノ ナ カ レ ノ オ ト モ ナ ク の
み づ に ま ど ろ む み づ と り の
ユ メ ハ カ モ メ ニ サ チ オ ホ ク

poco rit.

シ ヅ カ ニ ク ル ル ハ ル ノ ヒ ヤ め レ
し づ か に む す ぶ け ふ ー の ゆ ナ
ヒ ネ モ ス ミ ヅ モ シ ヅ カ ナ
し ヅ か モ む す ヅ ふ シ

リズム單位

歌詞及び註釋

鷗

一、夢や見るらん、けふもまた
汀にねむる 鷗鳥。
水の流の、音もなく、
靜かに暮るる 春の日や。

二、夢たさましそ、川舟の
舟うたしげく 聞えねば。
水にまどろむ 水鳥の、
靜かにむすぶ けふの夢。

三、夢路たどりて 汀邊の
水に、姿も うつしつつ。
夢は、鷗に 幸多く、
ひねもす、水も靜かなれ。

汀にねむる＝水際にねむる。
まどろむ＝うとうとと眠る。
夢路たどり＝それからそれへと夢を見て行く意。
ひねもす＝終日。

配當	題目	構成	指導要項
第一學期	風薫る［第四番］	調子 ニ調長調	目的
男女五月		拍子 4/4	樂譜指導系統
男女五月		音域	鑑賞教材及指導要點
八週			指導上の注意
十二週			

［形式的陶冶］生氣潑剌の氣に滿ちたこの歌曲を唱はしめて、新緑の情景を想像させ、爽快の情を養ふと同時に、自然に對する美的觀照の態度を培ふ。

［實質的陶冶］ニ長調の視唱に習熟せしめると同時に、この生氣に滿ちた歌曲のリズムと旋律を感得せしめる。更に發想的情味を味はせる。

樂譜指導系統

標號 9 四小節の間休止する

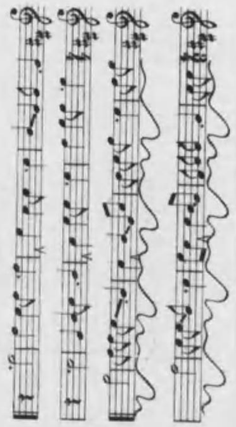
10

終りの部分をかへて

拍子 11 V ［ブレッス］息つぎ

音程 1 四拍子及びその歌ひ方指導 4/4

4 ［ドラ・］［ミ・ド］［ラミ］



鑑賞教材 行進曲形式

【要旨】行進曲の種類と其の特徴（一六〇頁參照）を復習し、作曲上の形式を解剖的に知らしめる。

1 種類 (イ)軍隊行進曲(觀兵式・凱旋・襲撃行進曲) 勇壯活潑 (ロ)祝典行進曲(葬冠式等) 稍々緩徐儀あり (ハ)祝婚行進曲 稍々緩徐喜び (ニ)葬送行進曲 最も緩く靜寂哀愁。

2 形式 複合三部分形式 Ⅰ A:‖B A:‖Ⅱ A B A Ⅲ A B A 第一部は多く反覆される。各部に二部或は一部分形式を用ひることもある。前奏或は後奏のある場合もある。

鑑賞用レコード 蔵冠式行進曲 V七一〇四 タンホイザ！祝祭行進曲 V七三八六

指導上の注意

1 重く歌はれ易いから、すがすがしさと樂しさを忘れぬ樣に輕快に歌ふ樣留意する。

2 各段の附點二分音符及び二分音符は時長を充分保つて歌ふ樣に。

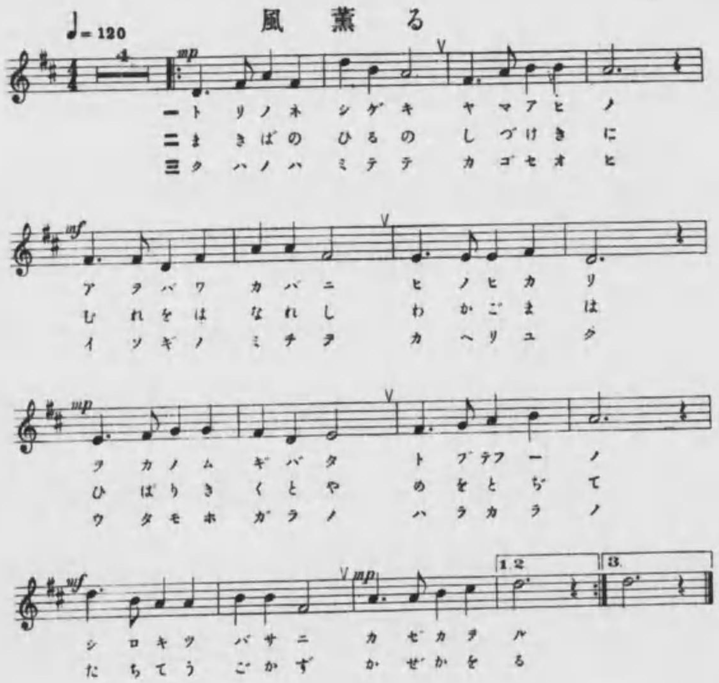
3 伴奏はレガートペダルを使用して爽快に彈くこと。

4 歌詞第一節・第二節の最後の小節のドソミ音は左手で彈くのである。

5 各小節の右手の最初の八分音符はアクセントを付け、各段の左手の休止をはつきり。

6 第二段・第四段の終りはデミヌエンドにした方よし。最後のペダルは踏み放しにする。

教授樣式	配當時間	他教科の連絡
樂譜視唱	四時間	圖畫科〔初夏の景色〕・綴方科



歌詞及び註釋

風薫る

一、鳥の音しげき山あひの
青葉・若葉に、日の光り、
丘の麥畑 飛ぶ蝶の
白き翅に、風薫る。

二、牧場の晝の靜けきに、
群をはなれし若駒は、
雲雀きくとや、眼をとぢて、
立ちて動かず、風薫る。

三、桑の葉滿てて、籠せおひ、
急ぎ 野路を 歸り行く、
歌もほがらの はらからの
姉に吹來て、風薫る。

山あひ＝山と山とせまつた峽谷。
風薫る＝唯の風の薫つて來る意味ではない。昔から薫風と呼ばれて、初夏の風を指したもので、初夏の頃、吹いて來る青葉、若葉の匂のする風を指してゐる。
はらから＝兄弟。

配當週数　女 九 ← 十 週　男 三 ← 十 週　女 二十 週　男 六 週

月 六 七 月

第一學期

題目構成　指導要項

[女 男]　**晴　雨　梅**　[番 五]

域	音	拍子	調子
ハ→ホ		2/4	調長 ハ

目的

[形式的陶冶] 梅雨晴の爽快味を巧妙に叙述せる本歌曲を唱はしめ、梅雨晴の朝の情趣を感味させる。同時に自然に對する美的觀照の態度を養ふ。

[實質的陶冶] 最初の半拍を休符とする弱起拍子の唱法に習熟させ、この輕快清爽な民謡風のリズムの効果を感得せしめ、併せて旋律感を陶冶する。

樂譜指導の系統

標號 12 [クレッシェンド]段々強く

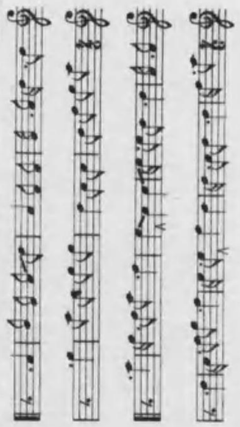
13 f [フォールテ] 強く

14 段々強めて

15 p [ピアーノ] 弱く

拍子 2 二拍子及びその歌ひ方指導 2/4

音程 5 [ソ・ド] [ファラ] [ラフ]



教材及指導要點

藝術的樂曲を鑑賞する爲めの形式的解剖

【要旨】 ソナタ・シムフォニー等を鑑賞する爲に必要なる形式を理解させる。組曲は舞踏曲で終始して居るが、鳴奏曲及び交響曲は歌謡形式から發達して來たもので、(但しメヌエットは舞曲であるが)然も組織的に排列されてゐる。

共の一 **リード形式** 交響曲ト調第二樂章アレグレット(ハイドン) C三三三三四

歌謡形式は唱歌を主として發達したもので一段・二段・三段の三つの形式がある。器樂に用ひられる場合は各樂節は擴大される。ソナタ樂曲では第二樂章に排列される。

指導上の注意

1 變化の多い發想に留意して効果的に扱ふ。十六分音符の二つ並んだ箇所は早くならぬ樣に柔かに歌はせねばならぬ。

2 音程の方面で誤られ易い所は、第一段のドラファの箇所、最後の「すがすがしさよ」のシ・ド・ドの箇所に留意し、且つ發想にも特に注意して餘韻を殘す樣にすると効果がある。

3 伴奏の低音に出て居るスタッカートはハーフ、スタッカートである。餘りペダルを使用せぬ方が効果がある。

教授樣式　唱歌譜樂

配當時間　四時間

他教科の連絡　綴方科

梅　雨　晴

♩= 84

一ヤネニ　スズメノ　イクニチ　ブリーニ
二よくも　つづきし　つゆけさ　はれーて

アサヒヲ　マチテ　タカラニ　ナケバ
しめりも　きよき　よあけの　にはに

ニハノ　アヲバヲ　フキクル　カゼノ
こぼれ　こぼれし　ざくろの　はなを

キヨキヲ　ホメテ　マドアケ　ハナチ
はきすて　かねて　てにとり　あげて

アヲキ　ソラミル　スガスガ　シサヨ
ヒタツ　フたつ　スガちス　ひるみ

2/4 ♪♪♪|♪♪♪|♪♬|♪♪♪♪|♪♪|♪♪|

リズム單位

歌詞及び註釋

梅雨晴

一、屋根に、
雀の　幾日ぶりに
朝日を待ちて高らになけば、
庭の青葉を　吹來る風の
清きをほめて、
窓　あけはなち、
青き空見る、清清しさよ。

二、よくも
つづきし　梅雨今朝はれて、
しめりも清き　夜明の庭に、
こぼれこぼれし柘榴の花を
掃きすてかねて、
手に　とりあげて、
一つ二つは、土拂ひ見る。

ほめて＝賞讃して。

配當週	自至 十週 三週	月 七	期 第一學期
題目	〔男〕 山	登	〔番 六〕
構成	域 ニ→ホ	音子 4/4	拍子 調子 ニ 調長

目的	指導要項
〔形式的陶冶〕 〔實質的陶冶〕	この爽快な歌曲を通して登山の樂しさ、それもアルプスなどの近代的登山の樂しさを知らせると同時に、爽快の情趣を感得せしめる。 スタッカート唱法に習熟させると同時に、この樂しいマーチ風のリズムと旋律を通して兒童のリズム感と旋律感を陶冶する。

樂譜指導の系統	鑑賞教材及指導要點	指導上の注意
標號 速度記號の指導 16 ♩=120 4×20×60/120=40 秒 17 行進曲風に 18 [スフォールツァンド] この音のみ特に強く 19 [スタッカート] 短速に 音程 6 [ドソ] 	其の二 **メヌエット形式** メヌエット ト調ベートーヴェン C三三三三四 ソナタ樂曲 シムフォニーでは多く第三樂章に排列される。フランスの舞踏曲であつて高雅な舞曲である。樂しげな中庸の速度の三拍子で、普通二つの樂節から出來てゐる。二段形式である此の樂曲は組曲ばかりでなく、交響樂・鳴奏曲・其の他室内樂に於て其の樂曲の一部に取り入れられ、舞踏の爲めの舞曲ではなく、音樂藝術の爲めの舞曲となり、音樂上に重要な地位を占めて居る。	1 第一段第四小節のリズム及び第四段・第五段の附點八分音符と十六分音符とのリズムを正確に歌はせる樣に。 2 第三段から第四段に、又第四段から第五段に移るところのクレッシェンドに注意する。 3 最後の ∧ の唱法に充分留意して取扱ふ。 4 低音を輕く歌ふ樣にして、全體爽快に歌ふ樣に常に留意すること。

教授樣式	配當時間	他教科の連絡
樂譜視唱	四時間	修身科〔體〕

登山

♩=120 行進曲風に

一 マナツナ レドモ マフユノ ヨソホヒ
二 あさひま だでず ことりも めざめず

アカツキ サムキ コヤヲイデテ
こはりの ごとき たにのなが れ

コンガウ ヅエモ シバシハ カタニ
ごしき いはね けはしき さかぢ

イクトセ クハダテ イクトセネギシ
おのれの てあしの ちからのまま に

コレナルケフ ーコクコトシワレヨヅ
わだれば の ぼれば むしやぶるひす る

リズム單位 $\frac{4}{4}$ ♪♪♪♪♩|♩♩♩♩.|♪♪♪♩.|

登山

一、眞夏たれども、眞冬の裝、
曉寒き 小屋を出でて、
金剛杖も しばしは肩に、
幾年くはだて、幾年願ぎし
これなる峽谷、今年われよづ。

二、朝日まだ出ず、小鳥も目ざめず、
氷の如き溪の流、
こごしき岩根、けはしき坂路、
おのれの手足の力のまま に
渉れば、登れば、武者ぶるひする。

三、たよる かんじき・アルペンストック、
一足毎の 歩高し。
滑るな、深きクレバス近し。
早くも起出で、やさしき聲に、
親子の雷鳥 巖角にあり。

四、お花畠の、目ざむるばかりに、
いろどり はしく きそひ咲くを、
かたみに愛でて 見上ぐる尾根に、
白きは キャンプか、白衣の人か。
行手に珍し、偃松の海。

五、低くなりゆく 下界の山山、
頂ばかり霧の海に
鳥かと見えて、目路いと廣し。
思ひもよらざる方より出でし
朝日に向かひて、関の聲あぐ。

金剛杖＝八角又は四角の白木の杖。
こごしき＝雪はしき。
かんじき＝雪溪などを渡るとき、滑らぬ樣に履物の裏に付ける金具。
アルペンストック＝木製の杖の一端に鋼鐵製の石突の付いたもの。
クレバス＝雪溪に現れた割目。
はしく＝愛らしく。
かたみに＝お互に。
目路＝眼界。
偃松＝灌は五本づゝ叢生する小さき松。

配當週	題目構成	指導要項
第二學期	第七番	
九月	紫式部	
自一週至四週	女	
機械	音子	調子 ヘ長調
ハ→ニ	拍子	4/4

目的

[形式的陶冶] 平安朝の書に於ける文學の秀才で、婦德高き紫式部の行績を知らしめると同時に、女史を偲ばしめ優雅の情を養ふ。

[實質的陶冶] 優美でゆつたりとした旋律とリズムをもつた此の歌曲のレガート唱法に習熟させ、此の歌曲特有の旋律的情味と發想的情味を感得させる。

樂譜指導の系統

音程 7 [ファレ] [ドラ・]

鑑賞教材及指導要點

其の三 **スケルツオ形式** 「鱒」の五重奏曲シューベルト作品一一四 C三三三三五

スケルツオは諧謔曲の意味で、ベートーヴェンによつてソナタに取り入れられたもので、ソナタではメヌエットの代りに普通第三樂章に排列される舞踏曲であつて、メヌエットよりは稍々速く四分の三拍子で節奏及和聲の變化は輕妙自在で、輕く戲れるやうな心地のする舞踏曲である。

指導上の注意

1 優艶な氣持を忘れぬ樣に、廣いゆつたりした發聲で歌はせること。

2 第一第三第四段息繼の前の二分音符が短くならぬ樣に注意する。

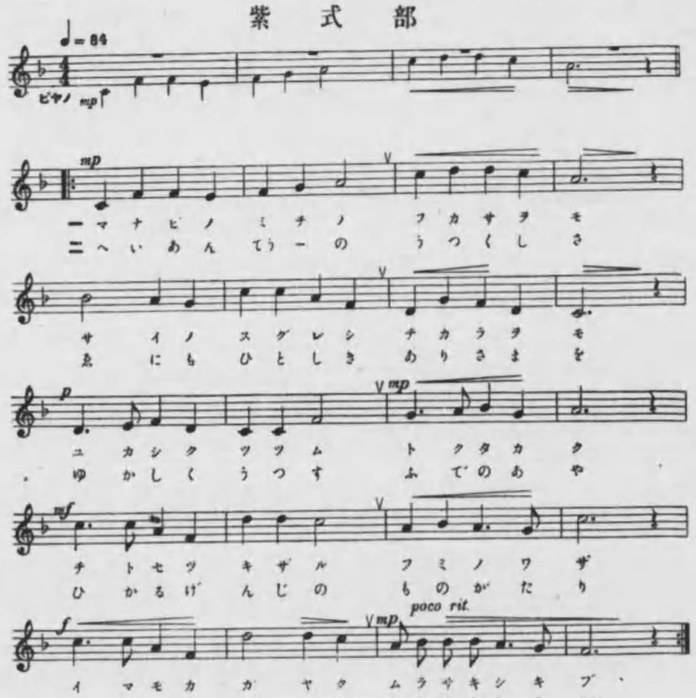
3 第四段第三・四小節は重く取扱ふ。第四段第二小節の第二歌詞の「ん」の音に留意して扱ふ。(上齒に舌を輕くつける)。

4 伴奏の方面ではレガートペダルを使用して、最後の二小節はハーフペダルを使用。

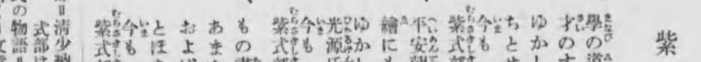
5 前奏第四小節及び第二段の最後のソララソの音をメロディックにはつきり。

他教科の連絡	配當時間	教授樣式
國語	四時間	樂譜視唱

紫式部



リズム單位



歌詞及び註釋

紫式部

一、學の道の　深さをも、
才のすぐれし　力をも、
ゆかしくつつむ　德高く、
ちとせ盡きざる　文のわざ、
今も　かがやく
紫式部。

二、平安朝の　美しさ、
繪にもひとしき　ありさまを、
ゆかしくうつす　筆のあや、
光源氏の　ものがたり、
今も　かがやく
紫式部。

三、もの書くをみた　昔より
あまたあれども、男さへ
およばぬほどの　高き名を、
とほき異國に　知らせつつ、
今も　かがやく
紫式部。

紫式部＝清少納言と共に王朝文學の代表的存在で、紫式部は非常に淑しやかな人、源氏物語の著者。
光源氏の物語＝源氏物語を指してゐる。
もの書く＝文章を書く。
筆のあや＝文ある筆致、趣ある文章。

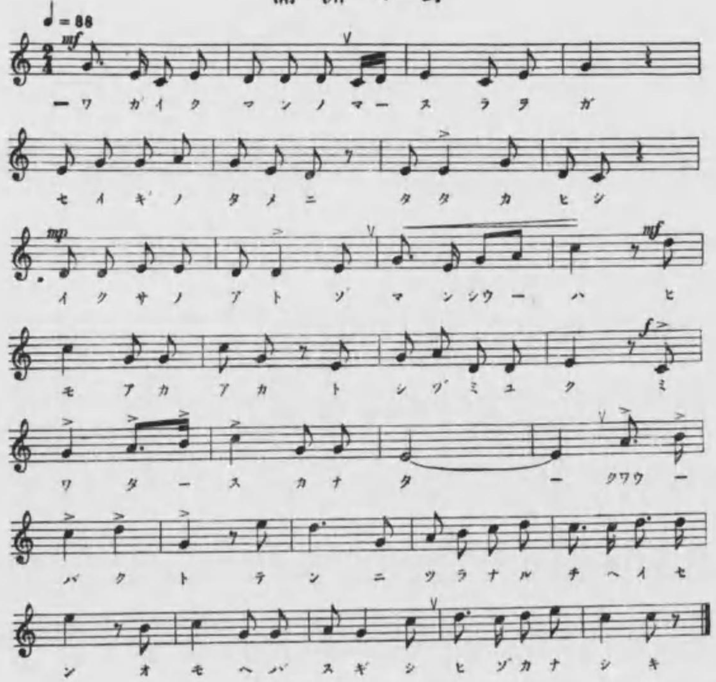
配當	第二學期	九月	自至 一四週
題目	滿洲の野	〔男〕	〔八番〕
構成	調子 ハ長調	拍子 $\frac{2}{4}$	音域 ハ→ホ

導要項

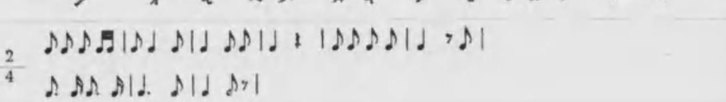
目的	樂譜指導の系統	鑑賞教材及指導要點	指導上の注意
〔形式的陶冶〕 瞰渓たる滿洲の落日と黎明とを歌つたこの歌曲に依り、滿洲の美しく雄大なる自然を想像せしめ廣大なる美感を養ふ。 〔實質的陶冶〕 日本趣味に溢れた獨特のリズムと變化に富んだこの曲の切分音の唱法に充分習熟させると同時に、この曲獨自のリズム感と旋律感を味はしめる。	音程 8 〔・レソ〕復習であるから二一六頁「海國男子」及び二三六頁「幼き頃の思出」本欄練習曲を參照利用する。	其の四 **ロンド形式** セレナーデ(モーツアルト) C三三三三三五 ロンドは旋轉曲の意味で、歌謡形式が器樂に取り入れられたと同樣に、輪唱の歌のぐるぐると循環して行くものに倣つて出來たもので、歌謡形式で出來て居る第一の樂曲(主題)と第二の樂曲(主題)とが交互に反復されるものである。 ロンド形式には一段ロンド形式・二段ロンド形式・稀に三段ロンド形式等がある。 大體に於て輕い調子の曲であつて、ソナタの第四樂章又は第二樂章に多く見出される。	1 全曲をマルカート風にはきはきと歌ふこと。 2 第二段第三・四小節及び第四段第三小節、第六段第三小節の音程に注意する。 3 第五段の三拍のばす音は時長を正しく保つて。第六段第五小節のリズムに留意する。 4 第四段から第五段に移る五度音程にアクセントの附いてゐることにも留意する。 5 伴奏の方面では第一段を前奏として用ふ。伴奏は全體をがつちりと滯りなく。決して輕くならぬ樣に。

教授樣式	配當時間	他教科との連絡
樂譜視唱	四時間	國史科・地理科

滿洲の野



リズム單位



歌詞及び註釋

滿洲の野

一、わが幾萬のますらをが、
正義のために戰ひし
戰のあとぞ、滿洲は、
陽も赤赤と沈みゆく。
見渡すかたた、曠漠と
天に連なる地平線。
思へば、過ぎし
日ぞかなしき。

二、わが幾萬のますらをが、
正義の名をぞとどめたる
戰のあとの滿洲は、
陽もほのぼのと明けてゆく。
見渡す野邊のはてまでも、
實にや、平和の理想鄉。
思へば、今日の
日ぞうれしき。

第一節は大陸日露戰爭當時の事を思ひ浮べて詠み、第二節は今の滿洲國の成立のことを頭の中に置き乍ら黎明の如く氣趣の溌る新興滿洲を詠んだものであらう。
曠漠＝はて無く廣いさま。
地平線＝地平面と天空との相接する線。

配當	第二學期	男女十月	男女五月一日	男女五月八日
題目	〔九番〕	秋近し	〔男女〕	
構成	調子 ニ調長	拍子 4/4	音域 ニ→ホ	

指導要項

目的

［形式的陶冶］本歌曲を味唱せしめることに依り、初秋の詩的情味を感得させ、自然に對する美的觀照の態度を培ふ。

［實質的陶冶］優雅で落着きのあるこの歌曲のレガート唱法に習熟させ、同時に旋律的情味と發想的情味を充分感得せしめる。

樂譜指導の系統

標號 20　一拍と三小節の間及び三拍休止する

音程 9 21 ［ソレ］［レフ］　この間反復する

教材研究及指導要項

其の五　ヴァリエーション形式

セレナーデ　ニ長調　ベートーヴェン作品　C三三三三六

ヴァリエーションは變奏曲の意味で、その名の如く或一つの主題を基礎として旋律上・節奏上・和聲上から種々變化裝飾して行くものであつて、主要な音を逸しないやうにして、統一を保つて行くものである。

最初に主題を出し、順次に變形一・變形二と附記して置く。邦樂では雅曲「六段」に替手と稱して行はれて居る。ソナタでは第二樂章に多く排列される。

指導上の注意

1. 發想指導に於ては發想的効果を充分に發揮する樣につとめること。
2. 附點四分音符と附點二分音符の時長を充分保つ。第二段第二小節の六度音程に留意する。
3. 各弱起音は短かくなりがちであるから充分時長を保つて。
4. 伴奏はおつとりとレガートで、絃樂四重奏の氣持を忘れず和音の旋律として考へる。
5. 歌ふ場合にも弾く場にも、フォールテやピアーノのないことに留意して、クレッシェンド及びデクレッシェンドを効果的に。速度を最後まで正確に保持すること。

教授	樣式	配當時間	他教科との連絡
樂譜視唱		四時間	圖畫科 手工科 ［初秋］［秋景］ ［し］［し］

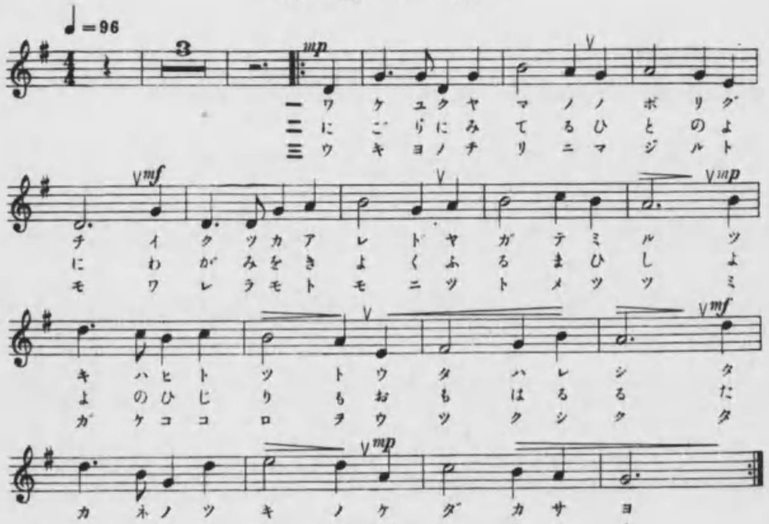
秋近し

♩=92

ニ三ニ三ニ三

配當	題目	構成	指導要項	教授式	他教科の連絡
第二學期	高嶺の月	調子 ト調長調	目的 [形式的陶冶] 高嶺の月の崇高さ、清らかさを表現したこの歌曲を歌ひ味はしめ、月に對する美的觀照の態度を培ひ、心情を清爽ならしめる。 [實質的陶冶] 弱起四拍子の唱法と、半音の多く用ひられた歌曲の唱法に習熟せしめ、爽淨で流暢なこの歌曲を通して兒童の旋律感とリズム感を陶冶する。	唱歌	讀方 修身
男女十十	[十番]	拍子 $\frac{4}{4}$	樂譜指導系統 音程 10 [ドソ] [レソ] [ミドソ]	譜視	科
男女九九	[男女]	音域 ニ→ホ	鑑賞教材及指導要點 共の六 **ソナタ形式** ソナタハ短調パセティーク・ベートーヴェン作品一二一 C三三三三七 月光の曲の最終樂章を復習。音樂の形式で此の形式を凌ぐものはない。名の如くソナタのアレグロ即ち主に第一第四樂章(稀に第二樂章)に使はれる形式で前部・中部・後部に分れ、變化と統一の反覆對稱を基礎として組織される。 前部(第一主題 主音・第二主題 屬音・再び反覆される) 中部(主題展開、普通は轉調) 後部(第一主題 主音の調子・第二主題 主音の調子)終句。	唱視	月光の曲
一月				譜	
二月				樂	
十二週			指導上の注意 1 清澄な曲趣を忘れぬ樣に流暢に歌はせる。伴奏も又同樣である。 2 第二節は第一節よりも强目に歌つた方が効果がある。休符のないことに注意する。 3 第三段及び第四段の音程に充分注意を要す。 4 第四段第二小節の二分音符は巾廣に充分時長を保つて歌ふこと。 5 伴奏の方面ではセカンドペダルを使用して清澄に。	配當時間 四時間	科
十三週					反

高嶺の月



歌詞及び註釋

高嶺の月

一、分けゆく山の　登口、
幾つかあれど、やがて見る
月は一つと　うたはれし、
高嶺の月の　けだかさよ。

二、濁に滿てる　人の世に、
わが身を清く　ふるまひし
代代の聖も　おもはるる、
高嶺の月の　たふとさよ。

三、浮世の塵に　まじるとも、
われらも共に　つとめつつ、
磨け、心を、うつくしく、
高嶺の月を　鏡にて。

第一節は「月は一つと　うたはれし」は「わけ登る麓の道は數あれど、同じ高嶺の月を見るかな」とか「分け登る麓の道は多けれど、同じ高嶺の月を見るかな」とかいふ古歌を詠み込んだものである。聖＝清節を守つた人たちを指してゐる。

配當	題目	構成	指・導	要項
第二學期 十月二日 自至 十月三日	〔十一番〕	〔男〕	野球の歌	
調子	ヘ長調	拍子	4/4	音域

目的

［形式的陶冶］ 此の歌詞と曲調を歌はせ堂々と戰ふところの男子らしい意氣を養ひ、大いにスポーツマンシップを宣揚する。

［實質的陶冶］ この明快なリズムと愉快な旋律を歌はせてこの歌曲獨特の壯快美を味はしめ、併せて兒童のリズム感と旋律感を陶冶する。

樂譜指導の系統

標號 22 *pp*［ピアニッシーモ］ 極く弱く 音程 11［ソ・ミ］

23 *non dim*［ノン ディミヌエンド］ 段々弱くせずに歌ふ

24 𝄽［全休符］ 一小節間卽ち此の歌では四拍休む

鑑賞教材指導要點

其の七 **シムフォニー形式** 交響曲第四十番ト短調モーツアルト C三三三三九

その構造はピアノソナタと略同樣で、オーケストラで作られたソナタとも言へる程である。

第一樂章 アレグロ・ソナタ形式

第二樂章 アンダンテ又はアダヂオ或はラルゴ

第三樂章 メヌエット又はスケルツオ（ベートーヴェン）

第四樂章 アレグロ・ソナタ形式或はロンド形式

シムフォニーの組立樣式

右の如き排列が標準だが樂章の數には增減があり、二と三は代る事がある。

指導上の注意

1 歌詞第二節の上では五・六月が適當であるが、本教材の全體的な美的價値を味ふ上には必ずしも五・六月でなくてもよからう。

2 前奏部のマルカートを利かせて主旋律を鮮明に奏すること。

3 息欄の前の二分音符が短くならぬ樣に注意する。附點音符を明快に齒切れよく歌はせる。

4 發想指導に於ては各歌詞毎に「發想の强弱」が異つて居る點につき歌詞と發想の强弱とを對照して自覺せしめ、發想に依つて各歌詞の氣持が一層よく現はれる事を感得させる。

教授樣式	配當時間	他教科の連絡
樂譜視唱	四時間	

野球の歌

♩=104

ヒヤノ *f marcato*

一ノヤウ ー クワウ ー し ナ キ ー ル し ソ ラ ノ モ ト ー
二ノち ん え い し づ け ー き ま な か に だ ち ー
三ヅハ ク セ ッ エ カ キ ー テ ま ソ キ ウ ー ト ペ ー
四ノしう ー しゃ は は こ ら ー す は いしゃも く い ー

ニ ー ン ノ ギ タ ケ ッ く ー ル ー ヨ
て ー ん しん はう ー め ア ッ ら ー メ ー す シ
ハ ー チ カ ラ タ ア ッ ら ー そ ー ム
す ー だう ー たう ー あ ら ー そ ー ム

コウ ー シュノ ユ グ ン クワ ン シュウ ー ヒ ト ー シ ー タ
とう ー しゆの む ね は せ い ら ん こ ず ー ま ー を タ
テ ワ コン イ チ ォ ト ア リ は コ クウ ー ー タ
たん じの い き に か つ さ い は わ き ー だ ー ち

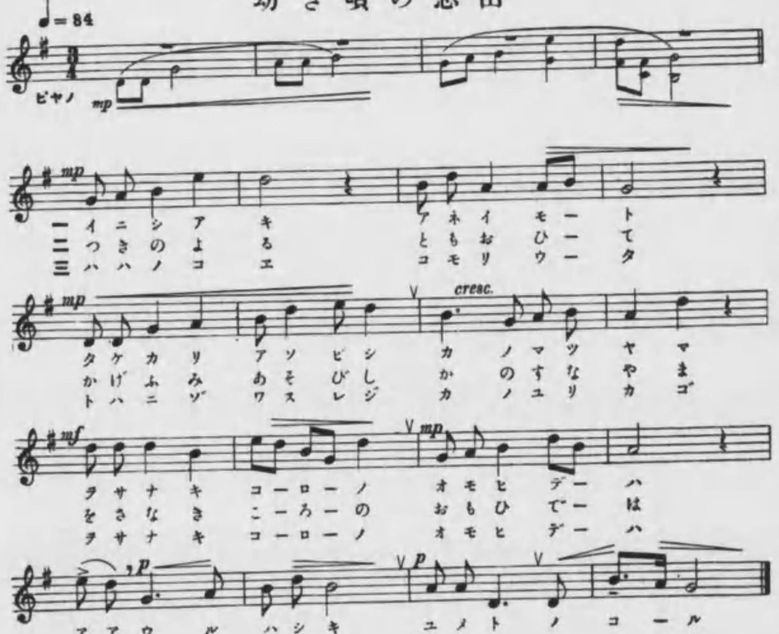
ヅカ タ ヅ タ ノ ふ ミ ー テ と ア ッ ム ル ヒ こ
pp さ や に ハ き *p* ま イ は ん ち ゃう タ や も く タ ゆ ふ
p カ ス ム て タ な ヅ ん サ な ヅ ヅ ヅ
ヅ が ー ー ま れ ー ー ノ ば
pp ヅ

(*non dim*)

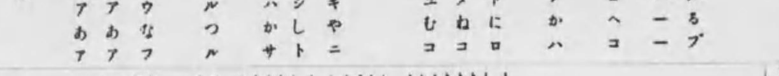
ト ふ カ ー ー ー

配當週	題目構成	指導要項
自至 十月十日 / 三十六週	第二學期　十二月	
	幼き頃の思出 ［女］［十二番］	
音域 ニ→ホ	拍子 3/4	調子 ト長調
指導上の注意	鑑賞教材及指導要點	樂譜指導の系統
1 リズムの變化の複雜なことに留意して、亂れぬ様に取扱ふ。 2 第二段第二小節の切分音は特に注意を要する。 3 ロ、あの詠嘆を特に入念に取扱ふこと。アポストロフに注意する。［樂譜欄參照］ 4 あの詠嘆を特に入念に取扱ふこと。アポストロフに注意する。 5 發想の適否はこの曲の生死を制するから、特に留意して取扱ふ。 6 第三段の唱ひ出しのおくれぬ様に注意すること。 伴奏も唱謠も充分レガートに。	鑑賞教材　幻想曲　トロイメライ　V一四八二（ヴァイオリン）　V一一七八（チェロ） 幻想曲はソナタやフーグの様な嚴正な形式によらず、極めて自由な形式であつて、最初の一樂節を模倣や變形によつて展開するのが普通である。 幻想曲と名のつくものは隨分あるが、概して綏徐で歌ふやうな曲節から出來て居る。抒情的で夢想的なところがよく人に好かれるのである。 本曲は夢想的なもの丶一つであつて、極めて靜かな、そして知らず〳〵夢の國へでも引き込まれて行くやうな感じのする幻想曲である。	標號 25　音程 12　［レソ］ ［アポストロフ］節を切る ［意注］ブレッス即ち［息つぎ］の意味ではなく［節を切る］記號として用ひてある。
教授の目的		
［形式的陶冶］なつかしき幼時を追懷せるこの歌曲を味唱せしめ、純良なる感激に浸らしめ、詩的情味を感得せしめると同時に優しき心情を養ふ。 ［實質的陶冶］三拍子で複雜なリズムに富む此歌曲の唱謠に習熟させ、此美しき旋律とリズムに觸れしめ、兒童のリズム感・旋律感・發想感等を陶冶する。		
他教科との連絡	配當時間	教授樣式
科方綴	四時間	樂譜視唱

幼き頃の思出



リズム單位



歌詞及び註釋

幼き頃の思出

一、去にし秋、姉妹（かぞいとも）
芒狩（すすきがり）り　遊（あそ）びし
幼き頃（なころ）の　かの松山（まつやま）。
ああ、美（うるは）しき　夢と殘（のこ）る。

二、月（つき）の夜、友（とも）追（おい）ひて
影（かげ）ふみ　遊（あそ）びし　かの砂山（すなやま）。
幼き頃（なころ）の　思出（おもいで）は、
ああ、懷（なつ）かしや、胸（むね）に還（かへ）る。

三、母（はは）の聲、子守歌（こもりうた）、
とはにぞ　忘（わす）れじ、
かの揺籠（ゆりかご）。
幼き頃（なころ）の　思出（おもいで）は、
ああ、ふる里（さと）に　心運（こころはこ）ぶ。

姉妹＝自分のことを指して居る。
去にし秋＝過ぎ去つた年の秋。
影ふみ＝お互の影法師を踏み合ふ遊び。
とはにぞ忘れじ＝永久に忘れない。「じ」は上の「ぞ」の係り結びで「ず」の意味。
心運ぶ＝心が遠く故郷へ通ふこと。

配當	題目	構成	指導要項
第三學期	〔十三番〕 御代の榮	調子 ト調長調	目的
男女 二月		拍子 3/4	樂譜指導
男女 二月		音域 ド→ホ	統系の導指
男女 二週			鑑賞教材及指導要點
男女 四週			指導上の注意

目的

〔形式的陶冶〕昭和の大御代を謳歌せるこの歌曲を味唱せしめ、壯快の情を養ふと同時に皇恩の優渥なるに感謝し、益々忠誠の覺悟を培ふ。

〔實質的陶冶〕爽快味の溢れた此簡單な二部合唱曲の唱法に習熟せしめ、且つ輕快のうちに壯嚴味のある和聲美を感得せしめ、同時に和聲感及び發想感を陶冶する。

樂譜指導

標號 26 〔嬰記號〕半音上げる

27 〔本位記號〕元の高さに返る

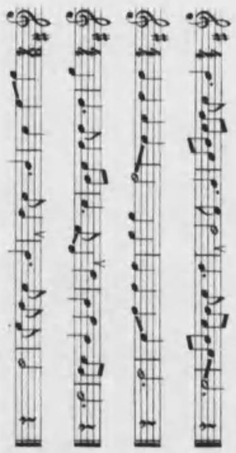
28 mp 〔メッツォピアーノ〕やゝ弱く

統系の導指

拍子 3 三拍子及びその歌ひ方指導

和聲 1 和聲感の指導

音程 13 〔ファレ〕〔レラ・〕〔シソ〕〔ソシ〕



鑑賞教材及指導要點

鑑賞教材　合唱曲　アンヴイルコーラス（男聲合唱）V二〇一二七

1 人聲の種類　女聲（ソプラノ、アルト）　男聲（テノール、バス）

2 合唱の種類　女聲合唱（二部、三部、四部）最も多し　男聲合唱―四部が普通　混聲合唱―四部が普通

3 聲樂曲の種類　宗教的（聖歌、讃歌、神劇）等　聲樂（合唱、齊唱、獨唱）　世俗的（歌謠、歌劇）等　器樂（伴奏、間奏、序樂）

指導上の注意

1 第一段及び第二段の發想に留意する。

2 この曲はだんだん、早くなりがちであるから注意せねばならぬ。

3 全曲の美しいハーモニーを失はぬ樣に。

4 第四段オクターブの個所と、第二段の臨時記號のある部分の音程に注意。

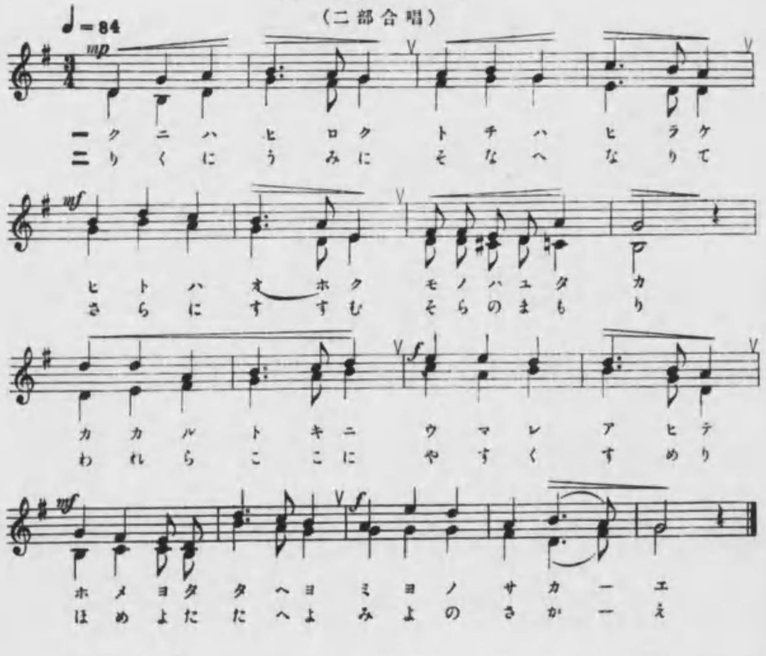
5 伴奏はタッチをなるべく深く。全體をメロディックに彈かずに立體的な感じで彈く。

6 最後のアッコードはペダルを直ぐ踏まずに音が消える樣になつてから踏むとよい。

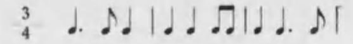
教授樣式	配當時間	他教科の連絡
樂譜視唱	四時間	修身科〔我が國〕

御代の榮

（二部合唱）



リズム單位



歌詞及び註釋

御代の榮

一、國はひろく、土地はひらけ、
人は多く、物はゆたか。
かかる時に　生まれあひて、
ほめよ、たたへよ、
御代の榮。

二、陸に、海に、そたへ成りて、
さらに進む、空の護。
我等　ここに　安く住めり。
ほめよ、たたへよ、
御代の榮。

三、傳統遠き誇もちて、
しかも若き國は日本。
伸ぶる力、內に充てり。
ほめよ、たたへよ、
御代の榮。

ほめよたたへよ＝稱讃せよの意。
御代の榮＝御代は天皇の御治世、榮は繁盛。
かかる時に生まれあひて＝その後に「喜に堪へない」と云ふ心を補つてみればよく意味が通ずる。
傳統＝受けついだ系統。

配當	題目	構成	指導要項
第三學期	御裳濯川	調子 ハ長調	目的
男女 二月三	〔十四番〕	拍子 4/4	教材及指導系統
男女 五月← 七週←	〔男女〕	音域 ハ→ニ	教授上の注意

目的

〔形式的陶冶〕皇太神宮の莊嚴無比なる樣を想はしめ、崇高敬虔なる念を養ふ。

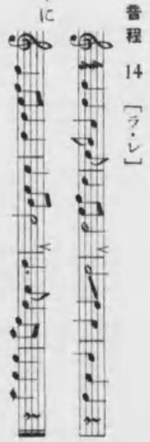
〔實質的陶冶〕歌詞と樂曲の極めてよく融合せる歌謠美を歌ひ味はしめ、この曲獨自の節奏美・旋律美・發想美を通して兒童の音樂性を陶冶する。

教材及指導系統

樂譜指導系統

標號		
29	*dim* [ディミヌエンド]	段々靜かに
30	*poco* [ポーコ]	わづか
31	*rit* [リターダンド]	段々おそく
32	*poco rit*	僅かリターダンドに
33	*Crese* [クレッシェンド]	段々强く
34	[タイ]	つゞけて歌ふ

音程 14 [ラ・レ]



鑑賞教材及指導要點

鑑賞教材 室內樂 アンダンテ・カンタビーレ(セレナード) ハイドン C九〇六一八

室內樂は昔音樂が專ら王侯貴族の間に行はれ、其等王侯の私室に於て演奏された事から一般に室內樂と呼ばれるやうになつた。

此等は皆公のものではなく、劇的・宗教的のものでも無く無聊を慰め、晩餐の興を添へる爲めの二三の樂器の合奏であつた。

室內樂は十人以下にて演奏されるのが普通で、指揮者が無く共奏と言ふべきもので、打樂器を用ひない事等がオーケストラと異つてゐる。

教授上の注意

1 全音符を多く使用してあることに留意して、息つぎや速度等に特に注意する。

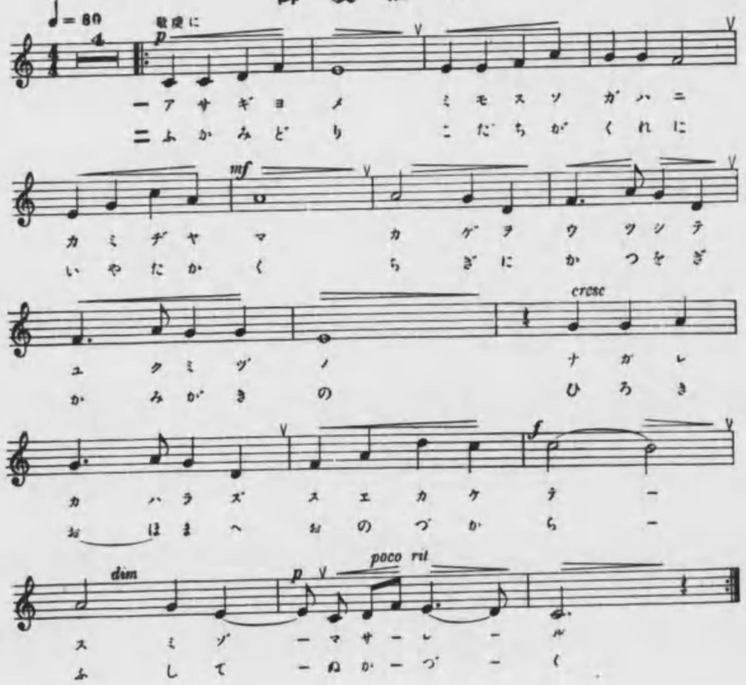
2 第一段第四小節のソファのファを充分下げて、又第二段ミソドララのラに注意する。

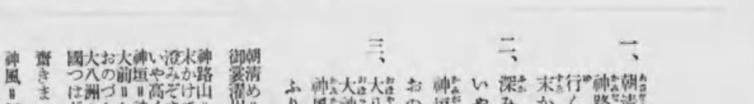
3 曲中のクレッシェンド・デクレッシェンドをしつかりと効果的に歌はせる。

4 伴奏はテヌートで、特に目立つ樣に重々しく彈くこと。各コードは皆深く重くおす樣な感じで彈くこと。第四段第二小節は低音部にメロディーがある。又最後の二小節はメロディーを明瞭に彈くことが必要である。

教授	配當時間	他教科の連絡
樂譜視唱	三時間	國史科〔皇大神宮の創立〕

御裳濯川





リズム單位

歌詞及び註釋

御裳濯川

一、朝清め御裳濯川に、
神路山影を映して、
行く水の流かはらず、
末かけて澄みぞまされる。

二、深みどり木立がくれに、
いや高く、千木に鰹木、
神垣の ひろき大前、
おのづから伏して額づく。

三、大八洲國つはじめの
大神齋きまつれる、
神風の伊勢の御社、
ふり仰ぎ見るもたふとし。

朝清め＝朝身を潔齋すること。
御裳濯川＝皇太神宮の神域を流れる川、五十鈴川とも云ふ。
神路山＝內宮神苑の南方にある山。
末かけて＝行く末まで遠く。
澄みぞまされる＝益々高く澄む意。ぞは係詞。
いや高く＝ずつと高く。
神垣＝神社にある垣。
大前＝お宮の前。
おのづから＝自然に。
大八洲＝日本の別名。
國つはじめ＝「つ」は「の」である。國の始めの、大神、即ち天照太神のこと。
齋きまつれる＝神に仕へまつること、齋きは心身のけがれを去つて清淨に。
神風＝伊勢と云ふときの枕詞である。

配當 第三學期 二・三月 自至 八十週

題目 〔十五番〕 **太平洋** 〔男〕

構成 調子 ハ長調 拍子 4/4 音域 ハ→ホ

指導要項

的目
〔形式的陶冶〕 海洋への憧憬と、海洋を越えて世界への關心を持たせ、海國日本の少年たることを自覺させると同時に、雄豪快活の精神を養ふ。
〔實質的陶冶〕 豪壯で爽快な此の歌曲は、旋律的にも節奏的にも發展的な變化を示して居る。此の歌曲の唱法に習熟せしめ、リズム感・旋律感・發想感を陶冶する。

樂譜指導系統

樂譜 35 「ド」〔テヌート〕特にこの音の時長を保つて。
音程 15 〔ドソ〕 二三二頁「高嶺の月」樂譜欄音程練習曲參照

鑑賞教材及指導要點

鑑賞教材 **樂聖とその音樂**
今迄に習つた樂曲につきその作曲者と時代とを明瞭にして、音樂史の大略を知らしめ、有名なる樂聖の傳記と業蹟を偲ばしめる。
1 古典音樂 バッハ・ヘンデル・モーツアルト・ハイドン・ベートーヴェン・シューベルト
2 浪曼音樂 メンデルスゾーン・ショパン・シューマン・ワグナー
3 近代音樂 チヤイコフスキー・ブラームス・ドビユッシー・サンサーンス・シュトラウス ストラヴィンスキー

指導上の注意
1 雄大に歌ふことを忘れずに、出來るだけ巾廣い發聲で歌はせること。
2 第一段最初は靜かに歌ひ出して、次第に示された速度に入る樣に。第三段第二小節は早くなり勝であるから注意して、第四段第三小節のラソミレソははつきりと。
3 第五段のスタッカートは忠實なスタッカートでなく。第二小節の二分音符はたつぷり時長を保つて歌ふ事。又ソミドミも早くならぬ樣に留意する。
4 伴奏の方面では第一段は大きな波の感じでペダルを使用する。

教授樣式 樂譜視唱

配當時間 三時間

他教科との連絡

太平洋

♩=112

ハタウー センリ ヤウ ーヤウー ト

ヒガシニ ウネリ ニシ ニヨセ

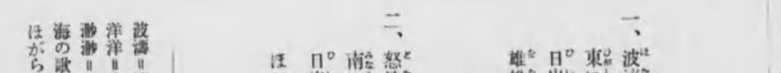
ヒイヅル クーニーノ アカツキニ

ヲヲシク ウタフ ウミノウタ

クロシホ コーエーテ イザユカン

ワレラノ ウミヨ タイヘヰヤウ

リズム單位



歌詞及び註釋

太平洋

一、波濤千里、洋洋と
東にうねり、西に寄せ、
日出づる國の 曉に、
雄雄しく歌ふ、海の歌。
黑潮こえて いざ行かん、
我等の海よ、太平洋。

二、怒濤萬里、渺渺と
南に走り、北に去り、
日出づる國の 島陰に、
ほがらに歌ふ 海の歌。
波乘りこえて いざ行かん、
我等の海よ、太平洋。

波濤＝海は大波、大波小波。
洋洋＝水の廣々として居る樣。
渺渺＝廣々として、はてしの見えぬこと。
海の歌＝打寄せる波の音を海の歌と見た。
ほがら＝ほがらかに、氣持よく。

配當	第三學期	二・三月	自至 八十週
題目	雛祭の宵 ［女］	［番六十］	
構成	調 ハ短調	拍子 $\frac{4}{4}$	域 ロ→ト♯

指導要項

目的

［形式的陶冶］ 此の情趣豊かな古典的な美しさを持つた雛祭りの歌曲を味唱せしめ、兒童の優雅な心情を養ふ。

［實質的陶冶］ 陰旋法にハ短調を加味したこの曲の唱謠に習熟せしめ、この優美な旋律とリズムを通して旋律感・リズム感・發想感を陶冶する。

教材

調子 1 短調の指導（尋常六年教材「風」「鎌倉」參照）

音程 16 ［シ・レ］

教授上の注意

古典音樂の部

其の一 バッハとその音樂（一六八五年―一七〇五年、二百五十年前）

バッハの少年時代の逸話に關聯して樂聖の業蹟や風格を偲ばしめる。

1 G線のアリア（ヴァイオリン・エルマン） V七一〇三

2 ガヴオット ホ長調「第六ソナタ」より（ヴァイオリン） V三四六五

3 アヴェマリア（ソプラノ） CJ五一六〇

4 遁走曲（フーグ） 平均律（ピアノ） VJD五一

鑑賞及材料

指導要點

1 曲想は極くおつとりと可愛らしく。

2 第三段第二小節の並列十六分音符を急がぬ樣に、レガートに歌ふこと。

3 最後のハ短調の導音である本位ロ音の音程を正確に歌ふことが必要である。

4 各段の附點二分音符の時長を正しく。又八分音符も同樣に。

5 前奏は美しいタッチで、第一小節の ―― は早めに上方の音を殘して、第二小節の ～～～ はするどく。伴奏の第二段第三段の左手は太鼓の音の樣に。

他教科との連絡

教授樣式	配當時間	他教科との連絡
樂譜視唱	三時間	手工科（雛人形）・裁方科

雛祭の宵

♩=96

一ボンボリニ一ヒヲイルルトテ
二じふ一一に ひとへの ひめぎみの

デントウ一コトサラケスモヨシ
かんむりすこしくまがれるを

エウ一ラクユ一一レテキラメ一キテ
なほすとの一一べしてのふ一れて

モノガタメクヒナ一ノ一ヨ一ヒ
もものはりなるとなーのーよーひ

リズム單位

歌詞及び註釋

雛祭の宵

一、ぼんぼりに灯を入るるとて、
電燈殊更消すもよし。
瓔珞ゆれて、きらめきて、
物語めく
雛祭の宵。

二、十二一重の姫君の
冠少しく曲れるを、
直すとのべし 手の觸れて、
桃の花散る
雛祭の宵。

三、官女三人のまねすとて、
妹まじめの振舞に、
加りたまふ 母上の
ゑまひ うれしき
雛祭の宵。

瓔珞ゆれて＝瓔珞は佛語から來てゐる。雛の冠にぶら下つてゐる燦々光る花形の金具と珠とを。
ぼんぼり＝燈火の覆小さい行燈。
十二一重＝平安朝時代の官女の正裝。
ゑまひ＝微笑。
官女＝宮仕する女、ここでは雛段に飾つてある官女。

音樂の力

音樂は神の賜物の中で最も壯大で最も愉快なものゝ一つである。

——ルッター——

音樂は本質上情緒の言語である。併し充分に音樂を味ふには、感情の外に猶知識を必要とする。何故ならば音樂が通る路は、感覺と情緒とそして知性との三つだからである。

——ゴットフリー——

風を化し俗を移す樂よりよきは無し。

——朱子——

夫れ歌は己を直うして德をのぶるなり。己を動かして天地感じ、四時和し星晨整ひ萬物育つ。

——樂記——

音樂の旋律は私達に秩序の觀念を與へ、其諧調は友愛の情を喚起し、其拍子は私達に堅固なる意志と強壯なる身體とを與ふるものなり。

——ハウエル——

高等二學年唱歌指導の觀點

◇本學年兒童の音樂性は、大體高等一學年兒童と同樣であるが、合理的に指導されて來て居れば、音樂的感情の方面と、音樂的形式感とが一層發達して來るから、歌詞や曲調に對する美的觀照の指導を深めるべきである。

◇殊に日本音樂に於ける傳統的な情味を味はしめたい。

◇尙音樂的感情と、音樂的形式感の發達に依つて、發想指導に於ては、其の歌曲に卽して兒童各自の强弱感なり、抑揚感を表現せしめる所の創造的な指導が望ましいのである。

◇本學年兒童になると變聲のため、聲域が狹くなつたり、聲區が降下したりする者が出來るので、合唱の指導なども適切に行へば効果がある。

◇又發聲の自由を失ふものが出來るから、指導上の注意が必要である。

從つて「歌ふ生活」以外の「聽く生活」「鳴らす生活」若しくは「樂器を作る作業」などの指導も必要である。

配當	題目構成	指導要項
第一學期	一番	若草	男女 四月 四週	男女 一二 一週
調子	變ニ長調	拍子	3/4	音域	♭ニ→♭ホ

目的

[形式的陶冶] 明朗な春の夢見心地に似た情趣をうたひ、悠揚として迫らぬ氣分を味はしめ、明朗にして伸びやかな感情を陶冶する。

[實質的陶冶] 變ニ長調の樂譜視唱を練習せしめ、四分の三拍子を以て比較的簡易なる節奏と旋律の中に表現された此の曲想美を味はしめ、音樂性を陶冶する。

樂譜指導の統系

標號 1 ♩=92 3×30×60/92=58秒位

2 p [ピアーノ] 弱く

3 反覆して

4 mp [メッツ・ピアーノ] やゝ弱く

5 mf [メッツ・フォールテ] やゝ強く

6 だんだん強く、だんだん弱く

7 rit [リタールダンド] だんだんおそく

拍子 1 三拍子及びその歌ひ方指導

音程 1 [ソ・ド] [ド・ファ]

鑑賞教材及指導要點

其の二 モーツアルトとその音樂(一七五六年—一七九一年)

現代の音樂を育てた一人であるモーツアルトの少年時代の逸話に關聯して彼が音樂史上に印した足跡の偉大であつたことを知らしめ、且つ兒童に親しみ易い次の如き曲を鑑賞させる。

1 子守唄(ソプラノ) VJD三〇四

2 トルコ行進曲(ハープレコード) V一一九三

3 メヌエット(オーケストラ) VJD二二一

4 三つの田園舞曲(オーケストラ) VJD二二一

指導上の注意

1 第三段第三小節の完全四度及び第六段第一小節の短六度の音程を兒童は兎角重く歌ひ易いから柔かく歌ふやうに注意すること。

2 第三段の變ニ音から變ト音の音程及び最後の段の音程に注意する。

3 附點二分音符の音時長を充分に延ばして歌ふこと。

4 伴奏に憬れの情景を現す樣に全曲をレガートに。左手が角ばらぬ樣に。

5 伴奏第四段の第一・二小節の八分音符の並列はやゝ早めに彈くがよい。

教授樣式	配當時間	他教科の連絡
樂譜視唱	四時間	

若草

♩=92

一ワカクサノノベノカナタハ

イソモナクスナハラモナク

ハテシナキウミニテアリキ

ウナバラノアサニユフーベニ

ナギサフクカゼノコトクニ

シホナリタノベニテキキス

リズム單位 3/4 ♩♩♩|♩ ♩|♩♩♪♪|♩♩ |♩ ♩|♩.

歌詞及び註釋

若草

一、若草の 野邊のかたたは、
　　磯もなく、
　　砂原もなく、
　　果しなき 海にてありき。
　　海原の 朝にゆふべに、
　　渚吹く
　　風の如くに、
　　潮鳴を 野邊にて聞きぬ。

二、若草は 春のしとねか、
　　草の香を
　　かぎつつすわり、
　　ゆくりなく 海をば思ふ。
　　海原も 春の日なれば、
　　若草は
　　波に萌えずも、
　　かげろふは 海より立たん。

第一節は本當の海が野邊の彼方にあることを歌つたもの。

潮鳴＝海鳴とも云ふ。海から聞えて來る一種のうなりである。

第二節は見えない海、想像の海である。

ゆくりなく＝思ひがけなくもの意味。

しとね＝すわる蒲團のこと。

配當			
第一學期	五月	自五週至八週	
題目	潮	〔二番〕	〔男〕
構成	調子 ニ長調	拍子 $\frac{2}{4}$	音域 ♩→♩

指導要項

目的

〔形式的陶冶〕「春の海終日のたりのたりかな」の名句を思はせる詩的な情景を想像させ、此のなつかし味のある旋律を歌はせて美的情操を陶冶する。

〔實質的陶冶〕ニ長調四分の二拍子の樂譜視唱に習熟せしめ、切分音の歌ひ方と共の轉位强聲につき知らしめ、兒童の旋律感及びリズム感を陶冶する。

樂譜指導の系統

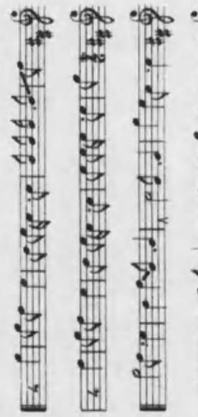
標號 8

［スラー］滑らかに

音程 2 ［レラ］［ラレ］

9

四小節間休止する



鑑賞教材及指導要綱

其の三 シューベルトとその音樂（一七九七年―一八二八年）

シューベルトの生涯と業跡を知らしめる。彼は異常な天分と秀でた情操を有つてゐて、その創作曲は實に六百餘で世界に於ける歌謡王である。

1 聽け聽け雲雀を・野ばら（テノール）V六九二六
2 即興曲・樂興の時（ピアノ）V七一二〇
3 辻音樂師（バリトン）VJE一一三
4 菩提樹（ソプラノ）V六八四六

指導上の注意

1 切分音の唱へ方を充分に打込む。
2 第六段の終「カキモウマレン」「かきやうまれん」は音程正しく、しかも抑へるやうな歌ひ方にならないやうに注意する。
3 伴奏は朗詠風に出來てゐるから、朗詠風に物淋しく弾く方がよからう。
4 左手から調子が出て居ることに留意して、又切分音的なアクセントに注意する。後奏は輕く深く弾くがよい。

教授樣式	樂譜視唱	配當時間	四時間	他教科の連絡	

潮

♩=50

ーハルノヒ　ナレヤ　ヒトリシテ
スナヤマノ　カゲニ　タタズミ
ケフ　ー　ー　ハシーモ　ウミノオト　キク
ウミノオト　キキウウ　ラレバ
クツナミハ　イトモハゲシク
アライソニ　シロ　ククダケテ
イハカゲニ　カキモ　ウマレン

リズム單位

♪♪♪♪|♪♪ ♪|♪♪♪♪♪♪|♪♬♩ |♩. ♪|♪♪♩ |
♪♪♩ |♪♪♪♪♪♪|

歌詞及び註釋

潮

一、春の日なれや、
　ひとりして
　砂山の陰にたたずみ、
　今日はしも　海の音聞く。
　海の音聞きつつをれば、
　立つ波は、いとも　はげしく、
　荒磯に白く碎けて、
　礁陰に、牡蠣も生まれん。

二、春の日なれや、
　ゆくりなく、
　砂山の上にのぼりて、
　今日はしも　沖を眺めつ。
　海の音聞きつつをれど、
　立つ波は、いとも　しづけく、
　荒磯に白く打たずも、
　礁陰に牡蠣や生まれん。

牡蠣も生れん＝は詩人の想像である。
第一節＝海の音聞きつゝをれば＝とあり、第二節に「海の音聞きつゝをれど」とあつて、又第一節には「荒磯に白く碎けて」とあり、第二節には「荒磯に白く打たずも」と微妙なる技巧が春の施されてゐる。尚第一節「立つ波は」の前に「上に」を補つて見ると、第二節「立つ波はしく」などといふ言葉を補つてすると春の海なれにがて意味はにがて似合はしく。
今日はしも＝今日もの意味を强めたもの。
眺めつ＝眺めた。
打たずも＝打たずともの意味。

配當	題目	構成	指導要項
第一學期 男女 五月 六月 男女 九月 ← 十二月 ← 男女	蓑蟲 [三番]	調子 ハ 長調 [陽旋法] 拍子 2/4 音域 ハ→ホ	目的 [形式的陶冶] 蓑蟲を擬人化した歌詞に童謡的な旋律とリズムとを加味して滑稽味を盛いたこの歌曲を味唱せしめ、音樂的な諧謔味を感得せしめる。 [實質的陶冶] 邦樂中の俗樂陽旋法になるこの二部輪唱曲の唱謠に習熟させると同時に、この曲獨自の節奏美や旋律美を味はしめて旋律感や節奏感を陶冶する。
教授樣式 樂譜視唱	配當時間 四時間		他教科の連絡 讀本〔第四課〕

樂譜指導の系統

標號 10 段落線 11 終結線 12 反覆記號 13 [フォールテ] 強く

拍子 2 二拍子及びその歌ひ方指導 2 4

和聲 1 輪唱とは何か

教材及指導要點

其の四 ベートーヴェンとその音樂(一七七〇年—一八二七年)

今日迄に世界が生んだ最も偉大な樂聖である。彼の優れた理智と深い感情は不朽の傑作を生み出し、古典派音樂を完成し浪漫主義の先驅をなしてゐる。

既習曲を復習する。

1 メヌエット第二番 ト調(ヴァイオリン) V一四三四

2 田園舞曲(ヴァイオリン) V一四一

3 交響曲「田園」第六番 ヘ長調 V六九三九—四三

指導上の注意

1 リズムの複雜なことに留意して指導すること。

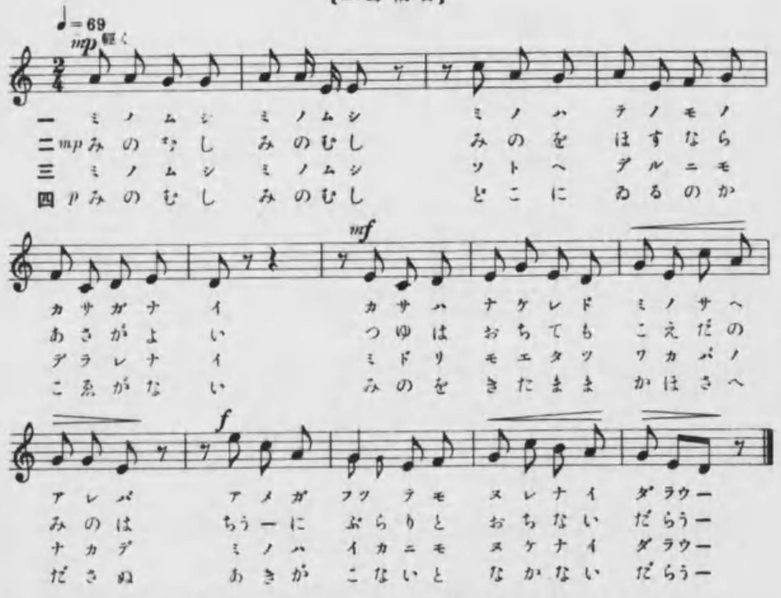
2 第一部の第二小節から第三小節への短六度の上行音程、及び第二部第四小節から第五小節への完全八度音程に注意して指導する。

3 發想記號を忠實に守り、陽旋法としての氣分を失はぬ樣に、然も輕快に取扱ふ。

4 伴奏は高音部・低音部共に旋律を現してゐるから、特にアクセントに注意して歌曲を生かす事。

蓑蟲

[二聲輪唱]



【注意】第一歌詞と第三歌詞はA組が先に歌ひ出し、B組が一小節遲れて歌つて行く。
第二歌詞と第四歌詞はB組が先に歌ひ出し、A組が一小節遲れて歌つて行く。

リズム單位 $\frac{2}{4}$ ♪♪♪♪ | ♪♪♪ | ♪ | ♪♫ |

歌詞及び註釋

蓑蟲

一、みのむし、みのむし、
蓑は手のもの、笠がない。
笠はなけれど、蓑さへあれば、
雨が降つても、濡れないだらう。

二、みのむし、みのむし、
蓑を乾すなら朝がよい。
露は落ちても、小枝の蓑は、
宙にぶらりと、落ちないだらう。

三、みのむし、みのむし、
そとへ出るにも、出られない。
綠もえたつ若葉のなかで、
蓑は、いかにも、脫げないだらう。

四、みのむし、みのむし、
どこにゐるのか、聲がない。
蓑を着たまま、顏さへ出さぬ。
秋が來ないと、鳴かないだらう。

蓑蟲＝幼虫は樹木の枝葉を絲で綴つて、その中に越年し、初夏の頃蛹化し、次で成虫となる。成虫は雌雄形を異にし、雄は普通の蛾と同じであるが、雌は諸器退化し巢の中に住む。
手のもの＝お手のもの、うまく作れる意。

配當	題目	構成	指導要項
第一學期	第四番	目的	目 [形式的陶冶] 街路樹へのいつくしみの情を詠はしめ、之等の植物に對して特に愛護の觀念を養ふと共に、清新なる氣分を助長する。 [實質的陶冶] リズム變化の妙味を感得せしめ、發想の重要なることを自覺させ、リズム感及び發想感を陶冶する。
男女 七月	街路樹	調 ハ長調	樂譜
男女 十月	街路樹	拍子 4/4	樂譜
男女 三十九	街路樹	子音域 ハ—ニ	樂譜
男女 ←三十	街路樹	子音域 ハ—ニ	樂譜
男女 ←十	街路樹	子音域 ハ—ニ	樂譜
男女 六十二週	街路樹	子音域 ハ—ニ	樂譜

樂譜の系統

標號 14 *poco rit.* [ポーコ リターダンド] 少しリターダンドに

15 *a tempo* [アテムポー] 元の速さで

16 三小節間休止する

17 ♯ [シャープ] 半音上げる

音程 3 [・レシ]

拍子 3 四拍子及びその歌ひ方指導 4/4

教材及指導要點

浪漫音樂の部

既習のものゝ中より選び、その樂聖の傳記及び業蹟を偲ばしめる。

1 メンデルスゾーン「無言歌」春の歌(管絃樂) V二一四四九

2 シュパン・マヴルカ(作品五九第三)(ピアノ) C九〇六二三

3 シューマン「謝肉祭」中の高尚なワルツ(ピアノ) C九六二四

4 ヴァーグナー「ジークフリート」火の音樂(交響管絃樂) C九〇六二五

指導上の注意

1 附點八分音符と八分音符との區別を明瞭にすること。リズムにも充分注意する。

2 第六小節の一點嬰ヘ音及び第二十小節の二點ハ音の音高を正確に歌はせること。

3 轉調について吟味させる。爽快に曲想を表現する樣に充分練習する。

4 第五段の「ネムーレ」の經過音は特に美しく明確に歌ふこと。

5 伴奏は新鮮味を出して、スタッカートを快活に奏すること。

6 第五段から第六段のテヌートに注意して。第五段の初めは手を右左交互に彈く。

教授樣式

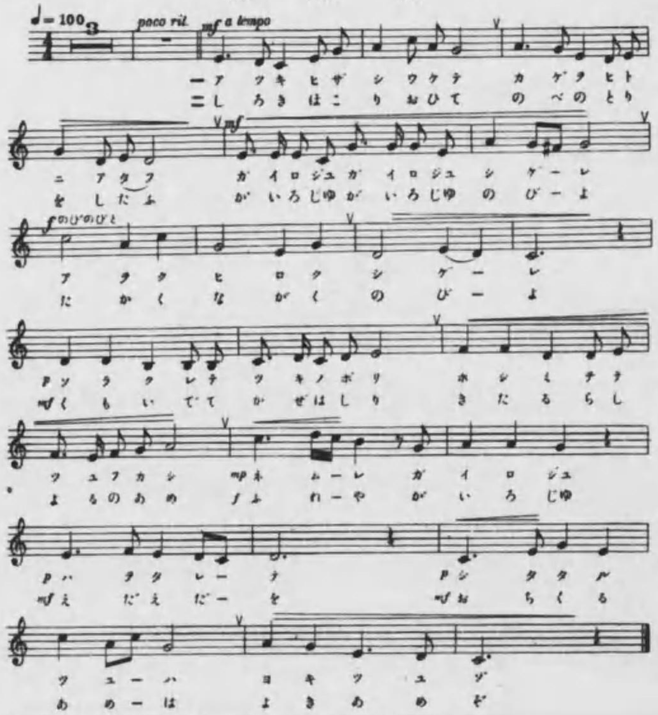
樂譜視唱

配當時間

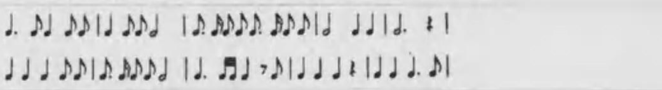
四時間

他教科の連絡

街路樹



リズム單位



歌詞及び註釋

街路樹

一、暑き日ざし　受けて、
影を人にあたふ
街路樹、街路樹、しげれ、
青く、濃く、しげれ。
空暮れて　月のぼり、
星滿ちて　露ふかし。
ねむれ、街路樹、葉を垂れて。
したたる露は　よき露ぞ。

二、白き埃　負ひて、
野邊の鳥をしたふ
街路樹、街路樹、のびよ、
高く、長く、のびよ。
雲いでて　風走り、
來るらし、夜の雨。
振れや、街路樹、枝枝を。
おちくる雨は　よき雨ぞ。

日ざし＝日光のこと。

配當 題目 調構 | 指導要項

第一學期 七月 自至 十日 三週 六週

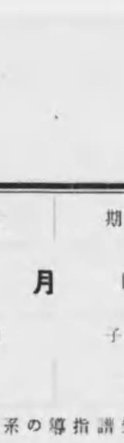
月見草 ［女］［番五］

域	番	子	拍	子	調
ハ→♭ホ		3/4			變ホ長調

目的 ［形式的陶冶］ 月見草を主題にして之にからまる都の友の思ひ出と、その友情を描く少女の美しき感情を陶冶する。
［實質的陶冶］ 變ホ長調四分の三拍子の樂譜視唱を練習し、三連音・強弱の變化・速度の緩急及び轉調の歌ひ方を會得せしむ。

樂譜指導系統

標號 18 ，［アポストロフ］三三六頁［樂譜欄］參照 音程 4 ［ミ→ラ］［レ→ファ］
19 (V) ［ブレス］ 息つぎ
20 *ritardand*…［リターダンド］ だんだんおそく
21 コ 三連音
22 *pp* ［ピアニッシモ］ 極く弱く



鑑賞教材及指導要點

近代音樂の部

近代に於ける作曲家を知らしめ。その代表的なものを鑑賞させる。（既習曲中より）

1 チャイコフスキーの組曲「胡桃割人形」より金米糖の踊（交響管絃樂） C九〇六二六
2 ブラームスの子守唄（ソプラノ） V一三〇七六
3 サンサーンスの白鳥（チェロ） V一一四三
4 ヨハン・シュトラウスの碧きダニューブの流れ（管絃樂） V三五九二七
5 シューマンのトロイメライ（ヴァイオリン） V一四八二

指導上の注意

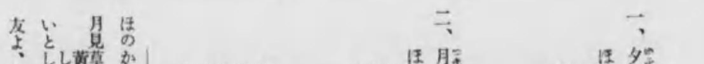
1 轉調の大意を説明する。變ホ長調より♭ト短調更に變ロ長調及びハ短調へ。
2 斯うしたなだらかな旋律は速度が遲くなる傾向があるから注意する。
3 曲の强弱、速度變化について充分指導し。發想と音樂の美的効果の關係を知らしめる。
4 「花よ」に於けるコンマの如き記號は吸氣するのでなく、單に息を句讀に從つて切る。樂譜欄參照。
5 伴奏は感情的にソフトペダルを使用して。ペダルは三拍目少し遲れて離す位に。

教授 樂譜視唱 | 配當時間 四時間 | 他教科の連絡 高三 讀本 ［月見草］

月見草

♩=100 *mf* ーユフ ーギリコ ーメシク サヤマニ
ホノカニ サーキヌキナルハナ ミヤコノ
p トモトコゾノナツ タヲリクラシシ
cresc. *mp* オモヒデノ ハナヨハナ ーヨ
poco rit. *a tempo* *mf* ソノナモユカシツキ ーミサウー
mp かぜきーよく ーたもとかーろし と もよと
cresc. *mf* もーよきたれをかに ーしづけくも
mp つきみさう ー ほたさきの ー
ritard. *pp*

リズム單位



歌詞及び註釋

月見草

一、夕霧こめし草山に、
ほのかに 咲きぬ、黄たる花。
都の友と、去年の夏
手折り暮しし 思出の
花よ、花よ、
その名も ゆかし、月見草。

二、月影白く、風ゆらぎ、
ほのかに 咲きぬ、黄なる花。
都にいます 思出の
友に聞らん、匂こめ。
花よ、花よ、
その名も いとし、月見草。

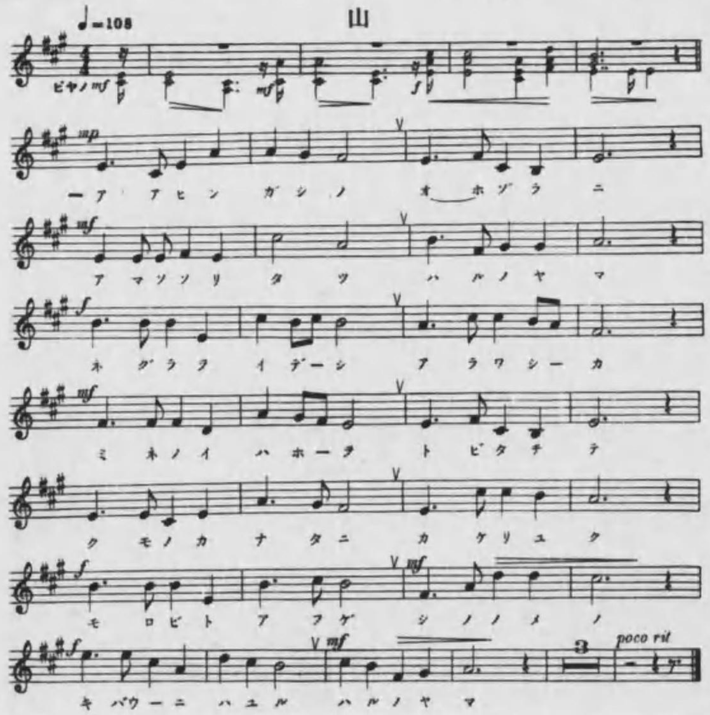
風清く、袂かろし。
友よ、友よ、來れ、丘に。
靜けくも、月見草
花咲きぬ。

ほのかに＝うすぼんやり。夢見る樣に、かすんで咲いてゐるの意。葉は互生被針形、四瓣の黄花を開き、一米位、莖は高さ一米位、日暮れから開花し、翌日の中に萎む。月見草は花序をなす。河原、堤等に自生す。いとし＝愛らしい。可憐である。月見草と云ふ其名かいかにも友よ、友よ＝來られないとは知りつゝも、都の友に來れと訴へる、その友情の濃やかさがうかがはれる。

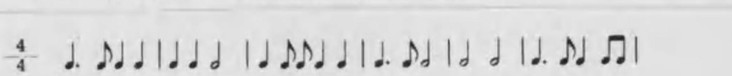
配當	第二學期	九月	自至 一週 四週
題目	山	[番六]	[男]
構成	調子	拍子	音域
	調長 イ	4/4	ロ→ホ

目的	樂譜の系統	鑑賞教材及指導要點	指導上の注意
[形式的陶冶] 希望に映ゆる春の山と平和に映ゆる秋の山を歌ふことに依り、強い氣魄と豪快なる氣分を喚起する。 [實質的陶冶] イ長調四分の四拍子の樂譜視唱に習熟せしめ、旋律感及びリズム感を陶冶する。	樂譜指導 標號 23 音程 5 [ソ…ミ] poco rit この小節を少しゆるく	鑑賞教材 **世界民謡の旅** 元來民謡は其の地方の生活から産れたものであつて、其の名の示すやうに民族特有の歌である。即ち農民の歌・辛飼の歌・舟歌・馬子唄・茶摘唄・子守歌・踊の歌等何れも素朴なもので、内容形式共に單純で初期の音樂は皆此等の類であつたと言つても過言ではない位根强いものであるが、何れも藝術的教練のない作者の産み出したものであつて、その作者もその出來た時代も不明で、誰が歌ひ出すとも無く次第に歌はれて來て、その民族やその時代の代表になるまでの勢力のあるものとなつたものである。	1 旋律上音程の困難なところは、第四段の第一・第二小節、第六段の第三小節である。 2 第三段は大きな氣持で、重く落ちついた氣持で歌ふこと。又第六段の第一・第二小節は言葉を强めて歌ふこと。第六段から第七段は腹の底へ響かせて歌ふ樣に。 3 伴奏は豪快にはぎれよく彈くこと。伴奏第六段は强くならぬ樣に、ひかい目に。「もろびとあふげ」からは大きな感じで、八段の「はゆる」と「はる」は充分はつきりと。後奏は口笛の樣にどよみなく、そして速くならぬ樣に留意すること。

教授樣式	配當時間	他教科との連絡
樂譜視唱	四時間	



リズム單位



山

一、ああ、東の　大空に
天そそり立つ、春の山。
ねぐらを出でし　荒鷲か、
峯の巖を　飛立ちて、
雲のかなたに　翔り行く。
諸人あふげ、しののめの
希望に映ゆる　春の山。

二、ああ、落日の　色うけて
雄雄しく聳ゆ、秋の山。
幼き日より　あふぎ見る
峯の巖は、若人に
高き理想を　授けたり。
諸人あふげ、夕燒の
平和に映ゆる　秋の山。

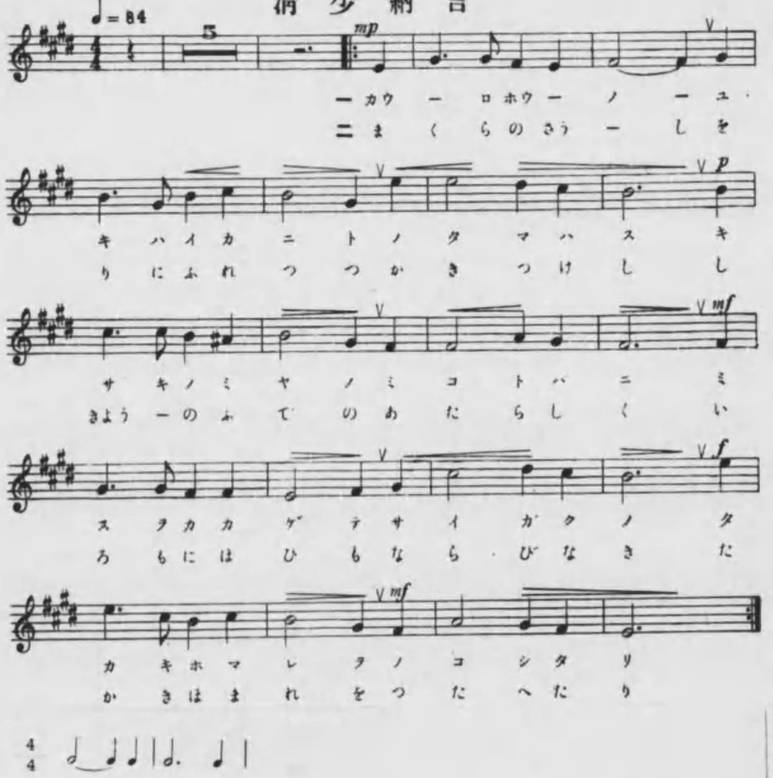
天そそり立つ＝そそるは聳える、天に高く聳える。
ねぐら＝塒、鳥の寢る巣。
しののめ＝東雲或は東天。
希望に映ゆる＝象徴であつて、春の山そのものが希望を暗示してゐる。
理想＝理性によつて想像しうる最上の狀態。

配當	第二學期	九月	一日至四週
題目	清少納言	〔七番〕	〔女〕
構成	調子	拍子	音域
	調長ホ	4/4	ホ→ホ

目的	樂譜指導系統	鑑賞教材及指導要點	指導上の注意
〔形式的陶冶〕清少納言の才學の高きほまれを謠はしめ、優美清楚の感情を陶冶する。 〔實質的陶冶〕ホ長調四分の四拍子の歌ひ方に習熟せしめ、轉調の大意を知らしめる。併せて兒童の音樂性を陶冶する。	和聲 2 二部練習	鑑賞用レコード　世界民謠の旅　V五三七四四 1 お江戸日本橋（日本古謠） 2 ステンカ・ラージン（ロシヤ民謠） 3 黒い眼（ロシヤ民謠）	1 第二段の短六度音程は重々しくならぬ様に發聲させる。第四段のサイガクの音程に留意する。 2 第五段の轉調は簡單な說明に止める。 3 歷史的事實及び文學的方面の事柄を敷衍して話して聞かせる。 4 四分音符の間にある息繼に注意する。附點二分音符の時長を充分に保たせる。 5 伴奏は優美に又清楚な感じを出す樣に彈くこと。セカンドペダルを使用して、絃樂四重奏の樣に和音を美しく彈くことが大切である。

教授様式	配當時間	他教科の連絡
樂譜視唱	四時間	國史

清少納言



清少納言

一、香爐峯の
雪はいかにと　のたまはす
きさきの宮の　みこと葉に、
御簾をかかげて、才學の
高きほまれを　のこしたり。

二、枕草子
をりにふれつつ　書きつけし、
詩興の筆の　新しく、
いろもにほひも　ならびなき、
高きほまれを　傳へたり。

三、歌に名ある
元輔の子と　生まれ來て、
歌こそ詠まね、俊才の
中にまじりて、いやさらに
高きほまれは　輝きぬ。

香爐峯＝白氏文集中の香爐峯下新ト山居と云ふ律詩の中に香爐峯雪撥簾看と云ふ句がある。
きさきの宮＝一條天皇の皇后定子の方。
枕草子＝隨筆文學の華、折りにふれ、詩興に任せて清新な感想を記錄した無雙の名著。
詩興＝詩的感興。
いろもにほひも＝其の光彩あること。
元輔＝歌人清原元輔のこと。
歌こそ詠まね＝「こそ」は意味を強める語で「ね」はその係結。歌はよまぬものゝと云ふ意。

配當	第二學期	男女 十月	男女 五月 ← 七月 ←
題目	〔八番〕	**秋のりの實**	〔男女〕
構成	調子 ホ長調	拍子 6/8	音域 ♭ホ→♭ホ

指導要項	指導上の注意
目的	鑑賞教材及指導要點
樂譜指導の系統	鑑賞用レコード 世界民謡の旅 V五三七四四
樂譜	4 サンタルチア（イタリーのナポリ民謡）
標號	5 わが夢わが歌（イタリーの民謡）
24	6 ローレライ（ドイツ民謡）
25	
26	
音程 6	
拍子 4	
六拍子及びその歌ひ方指導 6 8	
教授樣式	配當時間
樂譜視唱	三時間
他教科の連絡	

〔形式的陶冶〕豐穣の秋をたたへ垂穂の稻、黄金波うつ郊外農村の景色を想起せしめ、明朗純美なる感情を陶冶する。

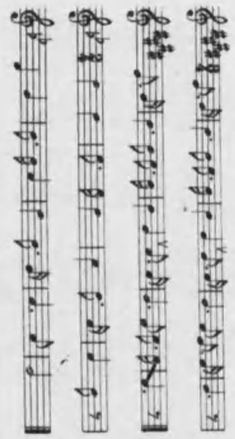
〔實質的陶冶〕ホ長調八分の六拍子の樂譜視唱を指導し、そのリズムの優雅なることを味はしめ、リズム感を陶冶する。

［ポーズ］ のばす

［タイ］ つゞけて歌ふ

1 ‖2 終りの部分をかへて歌ふ

［ミシ］［ラレ］



1 八分の六拍子の拍法の復習をなす。特にリズムに注意する。

2 八分休符のリズムを正確に歌はせること。第一段第三小節からの音時長に注意する。

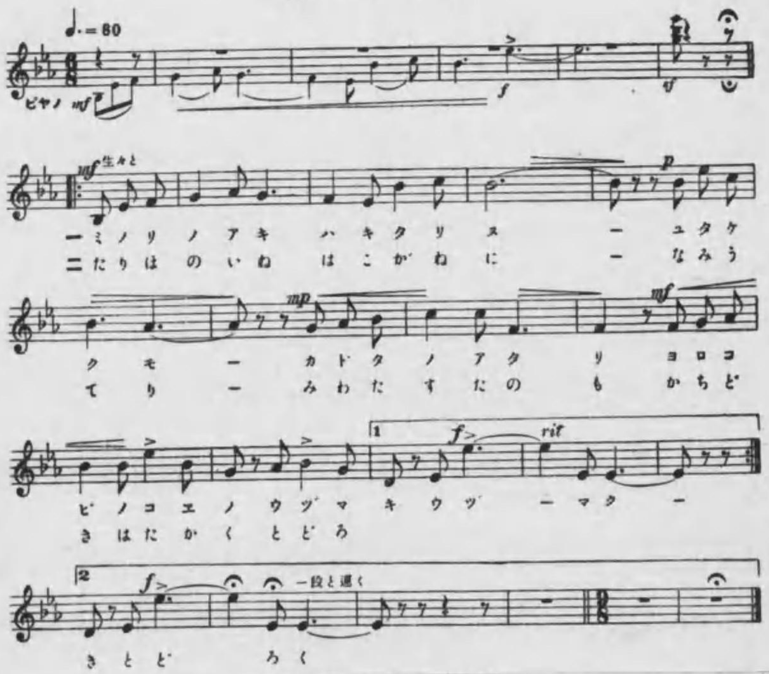
3 オクターヴの唱法を練習すること。第二段第三小節の五度の進行に注意すること。

4 「歌ふ部分を換へる記號」について充分指導する。

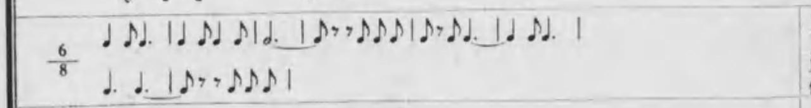
5 伴奏は生々と弾くこと。前奏は走る傾向があるから注意して走らぬ樣に。

伴奏第四段の三小節からは歌に合せる樣特に注意する。第七段は一段と速く弾く。

實のりの秋



リズム單位



歌詞及び註釋

實のりの秋

一、實のりの秋は
來りぬ、ゆたけくも。
門田のあたり、
よろこびの聲の
うづまき、うづまく。

二、乘穂の稻は、
黄金に 波うてり。
見わたす田の面、
かちどきは 高く
とどろき、とどろく。

實のりの秋＝收穫の秋。
ゆたけくも＝豐かにの形容詞。
門田＝門外の田、卽ち里近き田。
かちどき＝こゝでは歡聲と同意義に解す。前節のよろこびと同じ内容をもつてゐる。
乘穂の稻＝充分長くのびて垂れてゐる稻の穗。

配當	第二學期	月十二：十男 月十二：十女	週三十←八男 週三十←八女
題目	菊の香		
構成	九番	女男	
	調子	拍子	音域
	ニ長調	4/4	♯ハ→ニ

指導要項	
目的	[形式的陶冶] 菊花の持つ清楚な氣分を喚起し、菊花の延命に國體をなぞらへて國家的精神の涵養に資する。 [實質的陶冶] 本歌曲を授けニ長調四分の四拍子、二重唱曲の樂譜視唱に習熟させ、且和聲の美を感得せしめ、和聲感の陶冶に資する。
樂譜指導系統	標號 27 ♯ [ナチュラル] 元の高さに返る 和聲 3 二部合唱 音程 7 [レラ] [ミラ]
鑑賞教材及指導要點	鑑賞用レコード 世界民謡の旅(其の二) V五三七四五 7 アイ・アイ・アイ(スペイン) 8 スパニッシュ セレナーデ(スペイン) 9 久しき昔(春風)(スコットランド) 10 チリラの花かげ(おゝスザンナ)(アメリカ) 11 哀れな少女(フォスター作)(アメリカ) 12 アロハ・オエ(ハワイ)
指導上の注意	1 轉調の指導。第十一小節から第十二小節はニ長調からロ短調へ。第十四小節ニ長調より嬰ヘ短調へ。 2 和音の指導。和音の意義や和音の種類を簡單に說明する。二〇六頁スキーの歌「樂譜欄」參照。 3 伴奏は和音の美しさを充分出す樣に美しいタッチで清楚に彈くことが大切である。充分に歌にのつて彈くことが大切である。

教授樣式	樂譜視唱	配當時間	五時間	他教科の連絡	

菊の香

(二部合唱)

♩=92

一 ソラキヨラカニスミーワタ
二 あとにはつづくはなーもな
三 ワガシキシマノクニーガラ

ルーーアキノヲーハリニサキーイデテコ
くーーひとりひーさしくにほーひつつおち
モーーキヨキカーヲリニフクーマレテチ

コーロシヅカニヒートーノヨノチかヨ
くーはつゆしもかーはーれどもヨ
ヨーニヤチヨニカーギーリナキヨ

リサヘスーエスキクーーノハナ
はヘすいろきくのはな
ハヘスーエスキクーーノハナ

リズム單位

歌詞及び註釋

菊の香

一、
空清らかに澄みわたる
秋の終に咲きいでて、
心しづかに、人の世の
塵さへ据ゑぬ菊の花。

二、
後にはつづく花もなく、
ひとり久しく匂ひつつ、
置くは、露霜かはれども、
かはらぬ色の菊の花。

三、
わが敷島の國がらも、
清き薫にふくまれて、
千代に、八千代に限りなき
齡を延ぶる菊の花。

置くは露霜かはれども＝氣候の變化、季節の推移を指す。「露霜」は露と霜とである。「つゆじも」ではない。

齡を延ぶる菊の花＝菊は延命の花と稱せられるものであるから、帝國の齡を延ぶるといふ意味に用ゐたのである。

配當	題目	構成	指導要項
第二學期	霰三題〔番十〕	調 子	變ロ長調
男女十十月	〔男女〕	拍 子	2/4
男女十十三		音 域	ハ→ニ

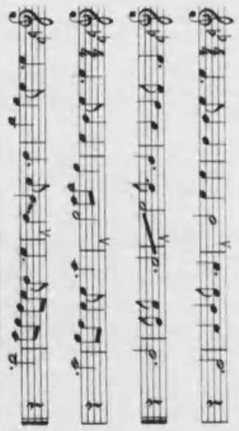
指導要項

目的

［形式的陶冶］霰の降り飛ぶ輕快味を味はしめ其の景色の樣々を想起させ、心情を輕快ならしめる。
［實質的陶冶］變ロ長調の視唱になれしめ、輕快なる伴奏と此の詩趣との合致せるところを知らしめ且味はしめてスタッカートの唱ひ方を練習する。

統系の導指譜樂

標號 28 ［スタッカート］短速に
29 ［スフォールツァンド］この音のみ特に强く
30 ［シュコペーション］切分音（音が結びついて强聲部の位置が移動すること）
音程 8 ［ソ・レ］［ド・ラ］



鑑賞教材及導指要點

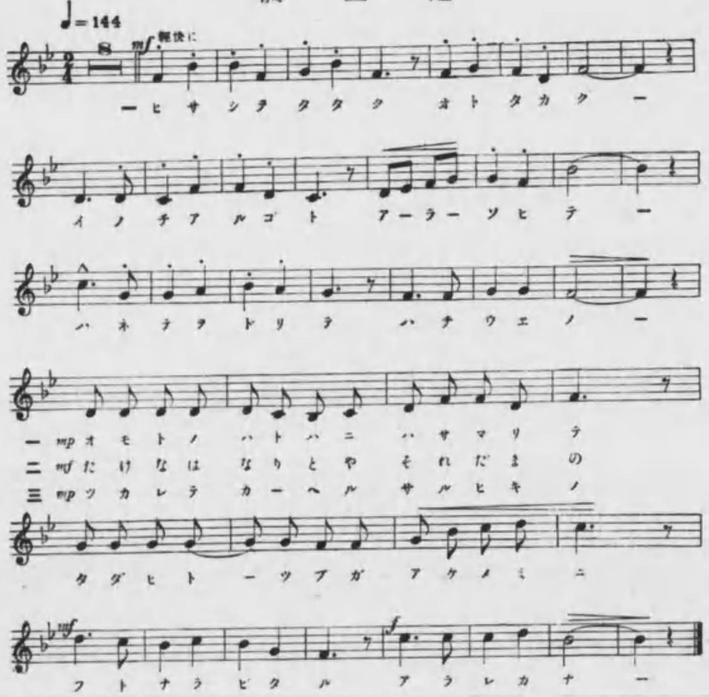
鑑賞教材 **器樂の種類**
1 內容的音樂
標題樂・描寫樂・交響樂詩・序樂・無言歌・子守唄・船唄・小夜樂・夜曲
2 形式的音樂
奏鳴曲・交響曲・競奏曲・旋轉曲・遁走曲・組曲・舞踏曲・變奏曲

指導上の注意

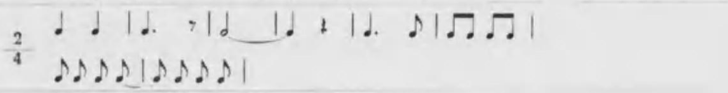
1 スタッカートの唱ひ方を練習して、だらけぬ樣に奇麗に唱ふこと。
2 「オモトノハ……アケノミニ」までは相當早口に伴奏も極めて輕快に、併し「フトナラビタル」は幾分おさへ氣味に。又第三段のアクセントを生かして歌ふこと。及び第五段第一小節からのタイに依る切分音は一寸歌ひにくいから注意して指導する。
3 伴奏は全曲を輕快に、アクセントをはつきり。スタッカートはごく短いスタッカートで、鍵に指をつけて置いて指を手前に引く樣にする。最後の音をはぎれよくする。

教授樣式	配當時間	他教科の連絡
樂譜視唱	四時間	

霰三題



リズム單位



歌詞及び註釋

霰三題

一、廂をたたく音高く、
命あるごと爭ひて、
はねて、跳りて、
鉢植の萬年青の葉と葉に
はさまりて、
ただ一粒が、紅の實に
ふと並びたる霰かな。

二、大空くらく、風うなり、
雲の上なる國原に、
おぞや、戰の始りて、
たけなはなりとや、
それ彈丸の飛來る如く、散る如く、
今、降りしきる霰かな。

三、村より村へ、ひねもすを
手ぶり、足ぶり、おもしろく
猿をまはして、
をどらせて、
疲れて歸る猿曳の
背に寒寒と眠りをる
猿驚かす霰かな。

ただ一粒＝の一粒は霰の一粒。
紅の實＝萬年青の實。
おぞや＝おぞましくも、恐しくも。
たけなは＝酣最中。
なりとや＝酣最中になつた爲かと云ふ意。

配當			
題目	第三學期	男女 月一	男女 月一 ← 週三
構成	〔十一番〕	吉野の宮居	〔男女〕
指導要項	調子	拍子	音域
	調短ハ嬰 〔法旋律〕	4/4	♯♪八→♪♯

目的

〔形式的陶冶〕 吉野五十七年の哀史をうたひ懷古の情に浸らしめ、忠君の念を喚起して國民精神の作興に努む。

〔實質的陶冶〕 嬰ハ短調四分の四拍子の樂譜視唱に習熟せしめ、短音階の組織と意義を知らしめる。尙兒童の施律感を陶冶する。

樂譜指導の系統

音程 9 〔ラ・ミ〕〔ラ・ソ♯〕

鑑賞教材及指導要點

鑑賞教材 **現代に於ける大藝術家**

現代に於ける世界的大演奏家を知らせ、其の藝術に觸れしめ、大藝術家に對する親しみと敬愛の念を養ふ。本レコードはその一部である。

鑑賞用レコード 大藝術家の記念選集 V五八二一三

パデレフスキー・マッコーマック・カザルス・メルバ・クライスラー・テトラツイーニ・ラフマニノフ・パッハマン・カルーゾー・メニューイン・ガリクルチ・シャリアピン・コルトー・チーリ・バックハウス・シューマン・ホロヴィッツ・メルキオール・エルガー

指導上の注意

1 律旋法を加味したるこの曲が長短兩調に於て見ざる優雅な美しさを充分味得させる。

2 第四段第二小節の音程及び第五段第一小節の音程に充分留意する。

3 第四段の八分音符の連續は皆速くなり易いから、落ち着いて正しい速度で歌ふ樣に注意する。

4 發想記號に留意して、第四段の終りは落着いて、全曲を幽遠な曲趣を出す樣に。

5 レガートペダルを使用して全曲を美しいタッチでレガートに。特にディミヌエンドのところの彈き方に留意する。

教授樣式	配當時間	他教科の連絡
樂譜視唱	三時間	國史

吉野の宮居

♩=80

一メ ダル シュン ジウー ゴジフーシ チ
二つ もる せい さうー ごじふーし ち

バ ンジョウー ノキミ カシコクーモ
ちゆう ーせつ のしん つぎつぎーに

ナ ヤマセ タマ ヨシノヤ マ
み まかり うせぬ よしのや ま

ハ ナノイロ ホ コレドモ ハレヤラス オホミウタ
つ きのかは さ ゆれども かきくもる あめのした

ア ハ レ ヌ オ ホ ミ ウ タ
あ あ き る あ め し

リズム單位

4/4 ♩♩♩♩ | ♩♩♩♩ | ♩♩♩♩ | 𝅗𝅥♩ |

歌詞及び註釋

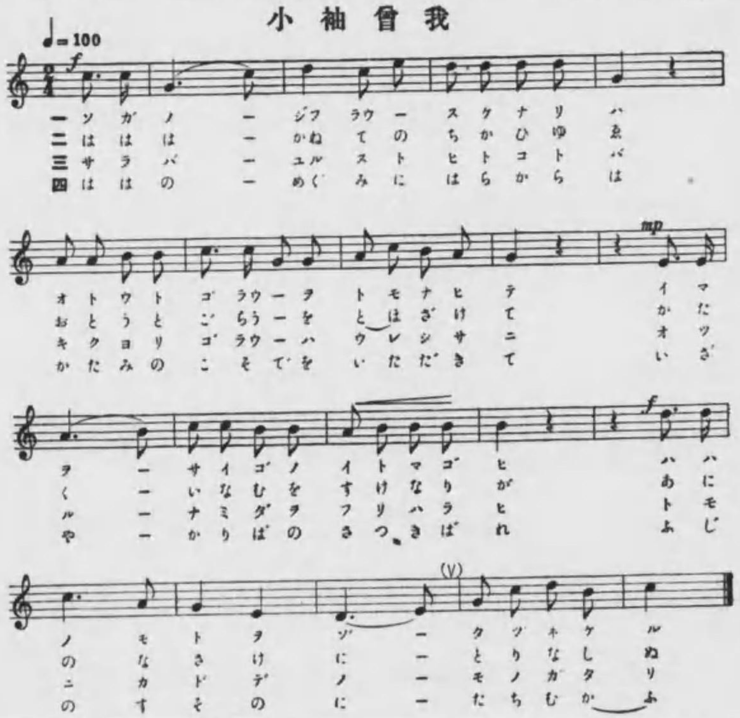
吉野の宮居

一、めぐる春秋 五十七、
萬乘の君 かしこくも
たやませ給ふ、吉野山。
花の色 ほこれども、
はれやらぬ 大御歌。
ああ、はれやらぬ 大御歌。

二、つもる星霜 五十七、
忠節の臣 つぎつぎに
身まかり失せぬ、吉野山。
月の顏 さゆれども、
かきくもる 天の下。
ああ、かきくもる 天の下。

吉野朝五十七年間の哀史をうたつた歌である。
春秋＝一年、卽ち年のこと、五十七年間の行在所。
萬乘の君＝天子は兵車萬乘を出すとの支那の故事による。天子の稱。
はれやらぬ＝御心のはれやらぬ意をもふくめてある。
身まかり＝身まかりは身罷りにて現世より去ることである。死去。
さゆれども＝はつきりと、曇なく照すけれども。
かきくもる＝かきは接頭語、曇ること。

配當						
第三學期	一・二月	自至	四週	七週		
題目	小袖曾我					
構成	〔十二番〕	〔男〕				
調子	ハ長調	拍子	2/4	音域		
目的	樂譜指導の系統	鑑賞教材及指導要點		指導上の注意		
〔形式的陶冶〕史的物語をうたはしめて國史的精神を宣揚し、更に此の曲調を通して詩的感興を深め美的情操を陶冶する。 〔實質的陶冶〕ハ調長音階の元氣ある旋法は途中第三段に於て短旋法に轉じ、再び長旋法に終る旋律の構成を理解せしめ、其の旋律感と調子感とを陶冶する。	音程 〔レソ・〕復習であるから二一六頁「海國男子」の本欄に於ける「音程練習曲」を參照利用する。	**鑑賞教材 演奏家と演奏樂器に依る表現法の相異** 演奏家に依る個性表現法の相異を發見せしめ、又演奏樂器が異ることに依り表現法も異ることの感じを發見せしめる。然し價値批判は避け表現法の妙技に觸れしめる。 1 スーベニール（ヴァイオリン獨奏）〔チンバリスト V九二 シューメー VDA八一一〕〔クライスラー V三二五 エルマン 一三五四〕 2 トローメライ（ヴァイオリン V一四八一 パイプオルガン VJA五三三 其他）（シューマン曲）（チェロ V一一七八 交響管絃樂 VJD四九八 絃樂合奏 VE三六	1 餘り上品一方でなく活氣を持つて野趣的な氣持を含めて歌はせる方がよからう。 2 附點八分と十六分音符及び八分音符の時長を正確に歌はすことに特に注意する。 3 この樂曲は最初が高音のフォールテであるから注意する。歌詞第二第三第四と移る場合休止せずに、すぐ歌ふべきである。又最後はリターダンドして齒切れよく歌ふこと。 4 伴奏は充分アクセントを付けて、ペダルは使用せぬこと。第一段を前奏とする。 5 第四段の第四小節は歌と同樣に一音一音をはつきりと切つて彈くこと。				
教授樣式	配當時間	他教科の連絡				
樂譜視唱	四時間	高三 讀本「小袖曾我」				



歌詞及び註釋

小袖曾我

一、曾我十郎祐成は、
弟五郎を伴なひて
今を最後の暇乞。
母の許をぞたづねける。

二、母はかねての誓ゆゑ、
弟五郎を遠ざけて
かたく否むを、祐成が
兄の情にとりなしぬ。

三、「さらばゆるす。」と一言葉
聞くより、五郎は、嬉しさに
落つる涙をふり拂ひ、
ともに首途の物語。

四、母の惠に、同胞は、
形見の小袖を戴きて、
いざや狩場の五月晴、
富士の裾野に立ち向かふ。

謠曲に原據した歌である。
第二節は五郎を勘當して曾はないと誓つたのであつたが十郎がとりなしたと云ふ意味。
とりなしぬ＝とりつくろうたこと。
小袖＝大袖の下に着る小さい袖の衣服のことである。
首途＝出立。戰に出かけること。

配當	題目	構成	導入要項	指
第三學期				
男 二・一 女				
男 三・二 女				
十 ← 四 週				
十三	我が家	男女		

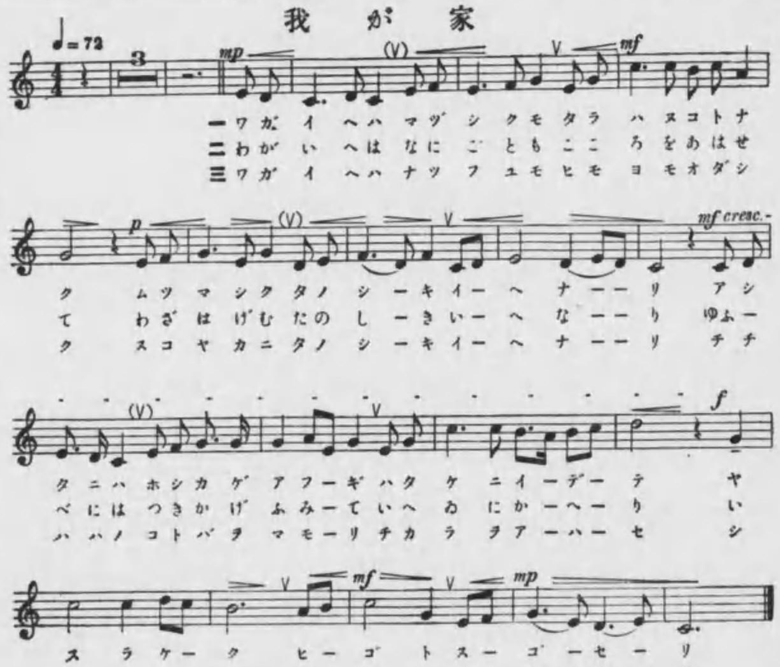
調子	拍子	音域
ハ長調	4/4	♯ハ→ニ

教材	教授	教材の目的	樂譜	指導の系統	鑑賞教材及指導要點	指導上の注意
雅樂	樂譜視唱	[形式的陶冶] 詩趣が農村を主題としてゐるが、何れにあつても我が家は樂しいものである。家庭團欒の樂しきこと、貧しくとも足らぬ事なき平和な氣分を養ふ。 [實質的陶冶] リズム變化の面白味を理解吟味せしめ、氣息の練習をなす。同時に兒童の旋律感及びリズム感を陶冶する。	31 ミ♪ までだんだん強め、更に弱める。 32 ミp までだんだん強め、更に弱める。 33 mp cresc [クレッシェンド] だんだん強く 34 [テヌート] この音の時長を充分に保つて		【要旨】 1 日本音樂の中最も古い雅樂について概略を知らしめる。 神代からの雅樂は人聲に樂器の伴奏がついた「神樂」「東遊」「久米歌」の類で、宮中の儀式や神社の祭禮に使はれる。「神樂」は天の岩戸の故事に起つたと云はれて居る。 2 外國から渡つて來た雅樂は「唐樂」「高麗樂」などの管絃樂で、御大典や宮中の儀式に使はれる神祕莊嚴なものである。 3 雅樂用の樂器は「管」横笛、篳篥、鳳笙、「絃」琵琶、箏、「打」太鼓、鞨鼓等である。	1 弱起小節につき復習的に取扱ふこと。又發想記號を無視せぬ樣に。 2 第一段第三小節の音程と第三段第二小節の音程に充分注意する必要がある。 3 氣息の要領を充分に練ること。特に氣息の前の音符の時長が延び易いから注意する。 4 伴奏はレガートペダルを使用してなだらかに。伴奏第三段の終りから第五段までの長いクレッシェンドに注意する。 5 伴奏第四段の最後のテヌポに特に注意する。

配當時間 三時間

他教科との連絡

我が家



一 ワガ イ ヘハ マヅ シ クモ タラ ハ ヌコトナ
二 わが い へは なに ご ども こ ろ をあはせ
三 ワガ イ ヘハ ナツ フ ユモ ヒモ ヨ モオダシ

ク ムツ マシ クタノ シ ーキイ ー ヘ ナ ー ー リ アシ
て わざ はげむたの し ーきい ー ヘ な ー ー り ゆふ ー
ク ヌコ ヤカニタノ シ ーキイ ー ヘ ナ ー ー リ チチ

タ ニハ ホシカ ゲ アフ ーギ ハタ ケ ニイ ーデ ー テ ヤイ
べ には つきか げ ふみ ーて いへ ゐ にか ーへ ー り
ハ ハノ コト バヲ マモ ーリ チカ ラ ヲア ーハ ー セ シ

ス ラ ケ ー ク ヒ ー ゴ ト レ ス ー ゴ ー セ ー リ ツ
ち に ち ー の ツ ー カ ー ニ や ー す ー め ー ク
タ シ ミ テ ト モ ハ タ ー ー ー ー ラ ー

リズム單位

♩ ♪♪♪♪| ♩ ♪♪|♪.♪♪ ♪♪♪.♪|♩ ♫♩ ♫|
4/4 ♩ ♪♫♫♫|♩ ♩ ♩|♩. ♫|♩. ♪♪. ♪|

歌詞及び註釋

我が家

一、我が家は、貧しくも、
　足らはぬ事なく、
　むつましく
　　たのしき家なり。
　朝には星かげあふぎ
　　畠に出でて、
　安らけく　日毎すごせり。

二、我が家は、何事も
　心をあはせて
　業はげむ
　　たのしき家なり。
　夕には、月かげふみて
　　家居にかへり、
　一日の　疲やすめつ。

三、我が家は、夏・冬も、
　日も、夜も、おだしく、
　すこやかに、
　　たのしき家なり。
　父母の　言葉を守り、
　　力をあはせ、
　親しみて　共にはたらく。

足らはぬ事なく＝足らぬことなくと同義。
朝には云云＝早朝に家を出るの文學的修辭である。
夕には云云＝夜おそく歸るの文學的修辭。
おだしく＝おだやかに。

配當	第三學期	二・三月	自七十週至
題目	羽衣〔番四十〕		〔女〕
構成	調子	拍子	音域
	調長ト・調短ト・調長ト 調長ト・調短ト	4/4 2/4 4/4	ロ→ホ

指導要項

目的

〔形式的陶冶〕 謠曲の羽衣より取材したこの完全なる藝術的歌謠曲を唱はしめ、この歌曲特有の美的價値を體驗せしめると同時に、優美なる感情を養ふ。

〔實質的陶冶〕 調子・旋法・拍子の巧な表現に依つて、歌詞が充分に生きて居る此の歌曲を歌ひ味はしめ、リズム感・旋律感を陶冶すると共に和聲美を感得させて和聲感を養ふ。

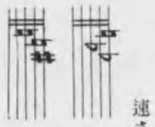
樂譜指導の系統

和聲 4 二部合唱

標號 35 ♩=92 後の♩は前の♩と同じ速さなる事を示す

調子 1 ト調から變ロ調に變る

2 變ロ調からト調に變る



拍子 5 四拍子・二拍子・四拍子の混合拍子の指導

音程 [ミ・シ] [ミ・ラ・] [シ・ミ・]

鑑賞教材及指導要點

【藝旨】

鑑賞用レコード **越天樂** VRLI—二一—A［愛好家協會］・

1 此のレコードを鑑賞させて雅樂特有の感じを味はしめる。

故近衛直麿氏が企で同秀麿氏が完成した名曲である。有名なストコフスキー指揮である。

2 ［唐樂］を洋風の交響管絃樂に編成したもので、雅樂獨特の分節法、呼吸法、拍節法が巧みに扱はれ、絃妙な用ひ方に依つて殆んど雅樂に接すると同樣な感じを起させる。

3 此の編曲は雅樂の持つ音を忠實に、而も雅樂特有の色彩も香氣も精神も少しも曲げられずに管絃樂に移されてゐる、實に立派な日本的な藝術である。

指導上の注意

1 第一合唱はなだらかに爽快に唱ひ、低音部の臨時音に注意する。

2 天女の獨唱の第四段の第一小節・第二小節の音程に注意する。

3 天女はソプラノ、漁師はアルトに人選した方が宜し。

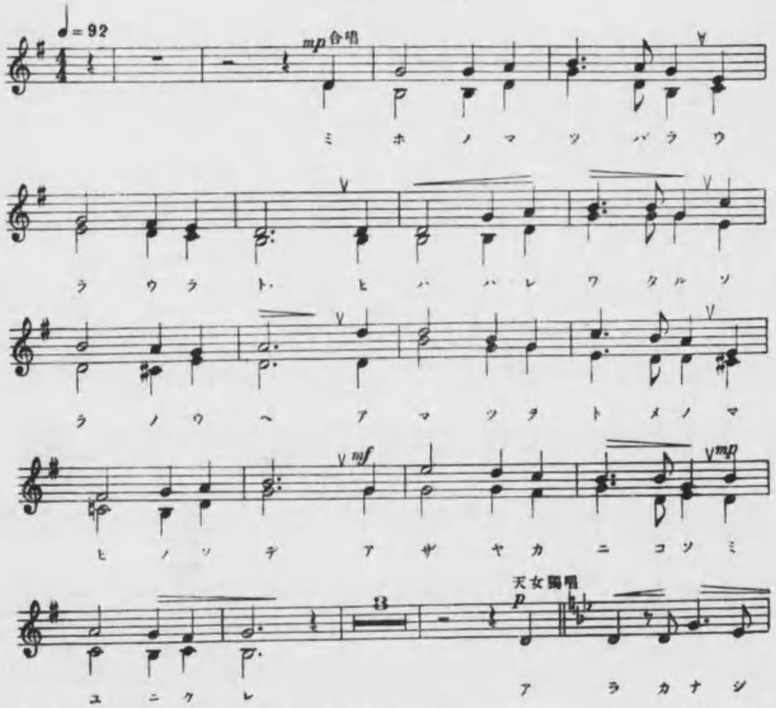
4 ♩=♪♪は四分の二拍子も四分の四拍子も四分音符を同じ速さに彈く意味。

5 伴奏の初めはアクセントペダルを使用して。最後の合唱の前奏からアクセントなく、又ハーフペダルを使用して。最後の高音部の音は左手で彈くこと。

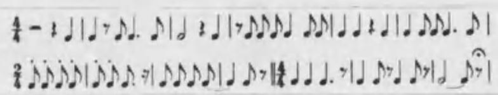
教授樣式	配當時間	他教科の連絡
	四時間	

羽衣

（獨唱及び二部合唱）



リズム單位



歌詞及び註釋

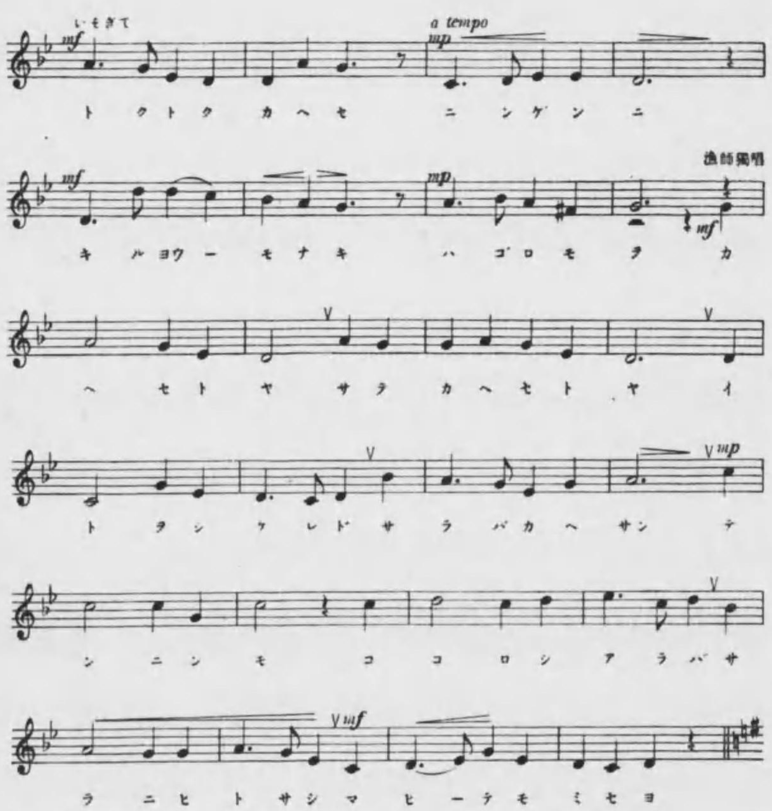
羽衣

合唱 三保の松原、うらうらと
日は晴れわたる空の上。
天津少女の舞の袖、
あざやかにこそ見えにけれ。

天女 あら、かなしや、
松の枝の羽衣失せて、
歸るすべなき雲の通路。

合唱 得たりと拾ふ、濱の漁師、
持歸りてぞ寶にせんと。

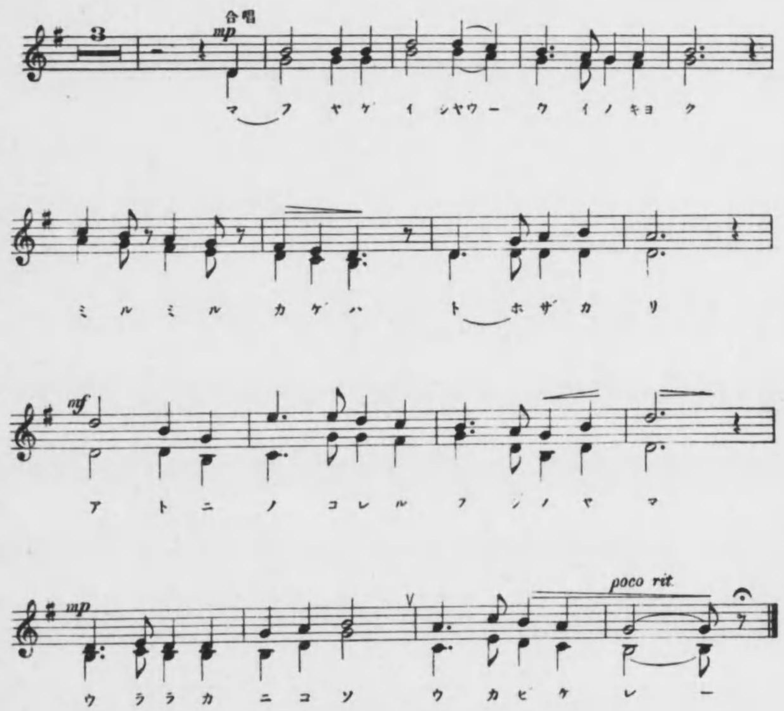
天女 衣なくては、如何にして
雲居のはてに歸るべき。
疾く疾く返せ、人間に
着る用もなき羽衣を。



漁師 返せとや、さて返せとや。
いと惜しけれど、さらば返さん。
天人も、心しあらば、
更に一さし舞いても見せよ。

合唱 舞ふや、霓裳羽衣の曲。
見る見る、影は遠ざかり、
あとに殘れる富士の山、
うららかにこそ浮かびけれ。

天津少女＝天上の國の乙女。
舞の袖＝袖をかざして舞ふ有樣。
あざやか＝立派。
すべ＝方法。
羽衣＝鳥の羽で作られたと云ふ衣。
雲の通路＝雲中の通路の意。
心しあらば＝「し」は助詞、心あらば。
一さし＝ひときり、一回、一度。
霓裳羽衣の曲＝霓裳は虹の如く美しい衣、霓裳羽衣は共に天女の裝束。この曲は唐の玄宗が夢に天女の舞樂を見て作つた曲。



終　神戸市小學校唱歌教授細目

昭和十三年八月二十日印刷
昭和十三年八月三十日發行

神戸市小學校唱歌教授細目

［非賣品］

著作者　神戸市湊東區橘通一丁目　神戸市教育部
右代表者　川嶋傳三

發行者　神戸市湊東區橘通一丁目　神戸市教育部學務課
右代表者　吉田義一

印刷者　東京市京橋區西八丁堀四丁目八番地　渡邊正雄

印刷所　東京市京橋區西八丁堀四丁目八番地　昭文社印刷所

發行所　神戸市湊東區橘通一丁目　神戸市教育部學務課

不許
復製
轉載

終